

會 員

- 古川 吉春
- 山崎 靖純
- 山口 勝実
- 申上 治三郎
- 渡辺 忍

昭和十五年九月二十五日、左記声明ヲ發表シテ解散シ、「東亞建設同志會」ト改稱ス

△声明

対外國策ノ根本轉換、新政治体制ノ確立ヲ目指シテ戦ヒ来ツタ本聯盟ハ、今ヤ内外國策ノ大轉換ヲ圖ルニ至リ、現段階ニ於ケル一応ノ任務ヲ達シクルヲ以テ、茲ニ欣然聯盟ヲ解キ、參加団体各其ノ出自ノ立場ニ於テ國策遂行ニ協力スルニ決シタ

△東亞建設同志會

創立 資格

昭和十五年十月九日
東亞建設國民聯盟ハ、大政翼賛運動ニ即座シテ、昭和十五年九月二十五日解散シタガ、啓蒙運動ヲ目的トスル思想団体トシテ、「東亞建設同志會」ト

綱 領

政綱ニ、十月九日再出發ヲ行ツタ
趣旨

皇國ノ歴史的使命ハ言フ迄モナクハ統一宇ヲ實現シ世界新秩序ヲ建設スルニアリ、先ツ亞細亞ヲ軸點トシメバナラヌ
今ヤ世界維新ヲ目指シテ日独伊ノ盟約成リ、國ノ方向ハ既ニ定マツタガ、國民諸層ノ決意ヤ如何ニ、政治、經濟、思想、凡ソル分路ニ今尚民主主義、自由主義、個人主義ノ殘滓カ殘ンデハ世ナイカ
比ノ國情ニ於テ、東シテ亞細亞ノ指導者タリ得ルカ、顧テ不安ナキヲ得ナイ、我等茲ニ集リテ「東亞建設同志會」ヲ組織シ、將ニ出發セントスル大政翼賛運動ニ協カシ、國民各家ノ一翼ヲ分担セントス、志ヲ同ウスル者更リ加ツテ斯ノ業ヲ共ニセヨ

綱 領

- 一、内ハ翼賛政治体制ヲ確立シ、外ハ羣國ノ精神ヲ柱石ニシテ、興亞ノ實現ニ邁進シ、進ンテ世界新秩序ノ建設ヲ期ス
- 二、皇民、皇土、皇産ノ原則ヲ指極シテ、職分奉公、翼賛經濟ノ本義ニ徹

シ、進ニテ東亞諸民族ノ爲ニ全亞ノ資源ヲ開発シ、皇亞經濟自給圖ノ確立ヲ期ス

三、皇亞細亞教育ノ本義ニ基キ、個人主義、自由主義教育ノ積弊ヲ一掃シ、皇運扶翼一途ノ國民教育ヲ興隆シ、「國民皆戰士」精神ノ徹底ヲ期ス

目的

本会ハ政治新体制ノ樹立並ニ東亞建設、世界維新ノ爲ノ思想啓蒙運動ヲ目的トス

役員

會長	末次信正	山崎末吉	杉山謙治
常任理事	下中弥三郎	今井新造	中原護司
	鈴木正吾	清水芳太郎	関根郎平
	石原廣一郎	清瀬一郎	藤沢親雄
	白鳥敏夫	武藤貞一	
	小島威雄		

会 員

昭和十五年一月二十二日、新大塚ビル内大皇亞細亞協會内ニ於テ末次信正

中野正剛、橋本欣五郎、清瀬一郎、下中弥三郎、大石大等出席、淺間文事件ニ関シ意見ヲ交換左記声明書ヲ發表ス

△声明書 支那事變三年ニシテ政府ハ尚斷乎タル對外政策ヲ確立スルヲ得ズハ撥蔣第三國ノ敵性行動ヲ放任シ英艦ヲシテ遂ニ我カ近海ニ置キ

傍若無人ナル行爲ヲ敢テセシムルニ至レルハ我ニ帝國ノ一大恥辱ナリ、之レ畢竟政府ノ対英米媚態外交が彼等ノ暴慢ヲ長セシメタル結果ニシテ我等日本人ノ容赦スル能ハサル所、政府ハ速ニ左ノ處断ニ出ツベシ
1. 帝國政府ハ帝國ノ威信ト名譽ヲ世界ニ顕示スル爲ニ断乎タル処置ニ出ツベシ
2. 速カニ交戦權ヲ行使シテ英國艦船ニ対スル嚴重ナル臨検拿捕ヲ發行スベシ

一月二十六日日本青年館、同二十七日日本所公会堂ニ於キ「淺間文事件批判英國打刺演説会」ヲ開催ス

△スローカン
内東亞新秩序ノ建設ハ討英ヨリ

(四) 帝國ノ玄關先テ英艦暴行

ハ淺間丸事件ハ英國ノ対日挑戦ナリ

(一) 対英媚態外交絶対排撃

一 同月、左記ビラヲ市内ニ貼布シ急業如今ニ附サル

1 横領ノ鼻先テ英艦暴行、コレデモマダ英米媚態力

2 南都ノ目前横領ノ鼻先テ英艦暴行、コレデモマダ對英米媚態力、折乎

交戦權ヲ發動セヨ、東亞建設國民聯盟準備會(大日本青年會、東方會、

日独同志會、國民同盟、大東亞協會)

解散 昭和十六年九月解散ス

東 興 俱 樂 部

芝区南佐久間町一ノ五〇

創立 昭和十四年五月二十七日

性 格 「青年大東亞懇話會」ノ關係ヲ有ス

領 略 設立趣意書(要綱)

支那事變ハ正ニ——東亞新秩序建設戰デアリ——亞細亞ニ於ケル旧秩序維持ノ主流ヲ爲ス者カ英國ヲアル以上支那事變ハ英國ニ對スル戰デアリ

——英國ノ尤甚ニシテ貪婪ナ侵略主義ハ實ニ我ガ亞細亞ニ於テ最も露骨ニ發揮サレタ——何物カ眞實ノ敵テアルカニ就テ諷リナキ認識ヲ把握セズハナラナリ——我等カ茲ニ同盟相因ツテ「東興俱樂部」ヲ設立スル所以ノモノハ曰ト共ニ激化スル國家内外ノ情勢ニ對應シ、此世界秩序更改ノ一局面トシテノ東亞新秩序建設ノ爲ニ正シキ認識ト判断トヲ確把シテ微力ヲ國策ノ發展ニ協力セントスルニ在ル、希ハ志ヲ同ウスル先輩同志各位ノ御協賛ヲ賜フシコトヲ

綱 領

君民一体ノ本義ニ基キ道義大日本ノ建設ヲ期ス

主 張

一 我等ハ日本民族生成發展ノ当然ナル段階トシテ日本ヲ主盟トスル大東亞細亞聯邦ノ實現ヲ主張ス

一 我等ハ曰、滿、蒙、支ヲ一體トスル新シキ經濟單位ノ建設ヲ主張ス

一 我等ハ日本の道義ニ基ク皇道文化ノ確立ヲ以テ改米唯物文化ヲ克服シ

全亞細亞的規模ニ於ケル新シキ文化体制ノ樹立ヲ主張ス

役員

責任者 柳澤英壽

吉川

藤井

性格

元皇民協同黨員ノリシ柳澤英壽ハ、吉川、藤井等ト共ニ、無所属青年層ヲ組織シテ、東興俱樂部一ヲ設立、排英運動ニ投シタ

政治活動

一昭和十四年七月十二日、討英ヒラ一万余ヲ配布ス
一同年八月、英國打倒、聖戰貫徹ノヒラ五千枚ヲ配布ス

日本民族ノ生成發展ヲ阻害スル不忠ノ臣現状維持勢力ヲ紛碎シ、日英
伊軍軍同盟ヲ締結セヨ

一昭和十五年一月三十一日、國辱淺間丸事件一ト題スル左記ヒラ一万余ヲ
複製各方面ニ配付ス

癡妄維新ヲ断行セヨ

國辱淺間丸事件、交戦權ヲ即時發動セヨ

柳留独逸人ヲ奪還セヨ

英大使館ヲ國民ノ力ヲ閉鎖シ、英國トノ國友ヲ即時断絶セヨ

七國の親英派ヲ掃滅セヨ
英英第二インター系日本海員組合及ヒ海員協會ヲ即時解散セヨ

東京政學會

芝区田村町五ノ一六

やまと新聞内

創立

昭和十五年一月二十七日

性格

やまと新聞主幹津久井龍雄ヲ中心ニ、元國民協會幹部森本耕、會田甚作等
が結成シタ団体デアル

綱領

趣旨

マルクス主義ノ理論ト實踐トが影ヲ潜メテ以テ、我が國カラ体系アル政
治革新ノ動キハ其ノ跡ヲ消シタ、我々ハマルクス主義ニ對シテ凡ユル点
テ正反對ノ立場ニ立ツモノデアルガ、然シ現在世ニ叫バレテ斗ルヤウナ
相雜ナ政治革新ノ声ニ雷同スルコトハ出来ナイ、茲ニ東京政學會ヲ興シ、
我が國ニ於ケル實踐的評論家トシテ特異ノ立場ヲ占メル津久井龍雄氏ヲ
中心トシテ、新シキ政治革新ノ研究ニ専定セントスル所以デアル、本會
ハ實踐運動ノ団体デハナク、專ラ研究ト道交トヲ主眼トシ、凡ソル階層、

役員

凡ニル立場ノ有志ニ向ツテ門戸ヲ解放スルモノデア
本会ト聯絡アルクルーアガ全國各地ニ興ツテ、往年ノ無産運動ヲ預期ニ
於ケル政見研究会ノ如ク、新日本國民運動ノ酵母トナラニコトハ、日本
現下ノ情勢ヨリ見テ、特ニ果敢ナリト考ヘラレルトコロデア
會長 津久井龍雄

幹事

森本 耕

會田 甚作

正木 吳

半谷 玉三

中村 忠夫

橋本 寅五郎

橋本 彦一

大槻 正秋

神田 兵三

吉田 義次

河野 芳郎

井上 義夫

太田 孝一

大塚 敏太郎

会 員

東南亞細亞民族解放同盟

赤坂区水川町一四
赤坂 四八〇六

創立 昭和十五年一月二十四日

性 格

民族解放ノ使命ヲ肩シウスル同志結合体ニシテ、個人及ビ団体ヲ包括ス
本会ハ東南亞細亞ニ於ケル被壓民族ヲ解放シテ各々其ノ所ヲ得セシメ
與亞大業ノ基礎ヲ固クスルヲ以テ目的トス
△決議

役 員

- 一 東南亞細亞民族ノ解放ヲ期ス
- 二 亞細亞民族ノ自主的經濟圏確立ヲ期ス
- 三 亞細亞民族文化ノ復興ヲ期ス

會長 安達 謙藏

理事長 赤池 義

常務理事 竹井 十郎

高岡 大輔

今村 忠助

会 員

啓蒙宣伝ヲ通シテ融和親善ヲ図ル爲メ 講演會ヲ開催シ、圖 並ニ小冊子ヲ
発行ス

発行ス

東方會

創立 昭和十六年三月十六日

性格 一、中野正剛ヲ中心トシタル政党ニシテ、國家社會主義系ナリ

一、昭和十五年十月二十二日、國內新体制ニ順応シテ思想団体「振東社」ニ

改組シタルモ、昭和十六年三月七日、再び政党「東方會」ニ復活ス

一、日本農民聯盟（會員約五万六千名）ヲ包摂ス

綱領 一、草莽ノ表誠ヲ上通シ、憲法ノ條章ニ則リテ、皇道政治ノ實現ニ挺身ス

二、純正日本精神ヲ昂揚シ、大東亜ヲ振起シテ、正義ヲ世界ニ宣布ス

三、萬民奉仕經濟体制ヲ整備シ、全國民ニ対シテ勤勞ト犠牲トヲ要求シ、名

譽ト生活トヲ約束ス

役員 會長 中野正剛

副會長 大石英大

農村部長 大島英二

都市部長 青木依雄

政務部長 三田村武雄

組織部長 本領信次郎

幹事 蓮藤一馬

評議員 小野讓一

尹田由美

中山優

蘆庵雄次

清水芳太郎

本多熊太郎

中村良三

渡辺泰邦

森峯一

倉田百三

齊藤直幹

島中雅三

頭山滿

三宅雄二郎

田中養達

加藤峰男

小島精一

宮崎龍介

関根郡平

徳雷猪一郎

會員約十万名

東京府支部聯合會

創立 昭和十四年五月三十日

黨員約三百名

役員 會長 宮崎龍介

深川支部

創立 昭和十三年四月二十四日

黨員 約百名

役員

支部長

關山茂太郎

幹事長

中村 等

幹事

山田 貢

他十三名

本所支部

創立 昭和十三年七月三日

黨員 約三百名

役員

支部長

山森左市郎

幹事長

永井貞三

幹事

上末吉

與早孝之助

世田谷支部

創立 昭和十三年八月十四日

黨員 四十名

役員

支部長

吉川末次郎

幹事長

坂下 芳助

幹事

岸本市太郎

澁野川支部

創立 昭和十三年九月十九日

黨員 約六十名

役員

支部長

岡野俊雄

副支部長

津田啓一

幹事長

高橋新八

評議員

田中照泰

他六名

島崎勝治

豊島支部

創立 昭和十三年十月十六日

黨員 六名

役員
支部長 市川陸奥麿
幹事長 的場茂
幹事 大澄徳藏
他二名

杉並支部

創立 昭和十三年十月二十五日
黨員 約八十名
役員
支部長 久員
副支部長 桐田信吉
幹事長 相沢正彦
幹事 白山馨
他十一名

麻布支部

創立 昭和十三年十一月十八日
黨員 百五十一名
役員
支部長 守田紅三
常任幹事 山川貞之助
他十二名

中野支部

創立 昭和十三年十二月三日
黨員 約六十名
役員
顧問 由谷義治
支部長 本領信次郎
幹事長 酒井由二
常任幹事 勝田總策
他五名
關根郡平

品川支部

創立 昭和十四年二月二十三日
黨員 約百名
役員
支部長 植田重義
副支部長 飯泉復吉
幹事長 鈴木藤太郎
他五名

荒川支部

創立 昭和十四年三月二十一日

黨員約五百三十五名

城北民衆俱樂部

一〇〇名

荒川登録同志会

二〇〇名

城北セルロイド睦会

五〇名

荒川市民俱樂部

一〇〇名

大東京映画技士親睦会

三五名

東京軍履工組合

五〇名

役員

支部長 岩内善作

總務部長 早藤守長

常任幹事 交田五男

他六名

澁谷支部

創立 昭和十四年五月十四日

黨員 百三十七名

支部長 藤田虎麿

澁橋支部

創立 昭和十四年十一月二日

黨員 約三十名

支部長 富山清

白鳥支部

創立 昭和十四年十一月十五日

黨員 約五十名

支部長 滝沢逸平

浦田支部 浦田區小林町三六六 石崎方

創立 昭和十四年十一月十八日

黨員 三十一名

支部長 石崎幸銀

幹事長 矢野賢二

副支部長 土橋丹三
常任理事 渡辺豊
他八名

治

動

事

神田竹二郎

他三名

一 全國ニ支那ヲ有ス

一 機關紙

一 昭和十四年六月六日及七日、京都市ニ於テ、租界回收援蔣國打倒大演説会ヲ開催ス

一 同年同月十五日、天津軍司令官ニ対シ、天津租界隔絶感謝激勵電ヲ発ス

一 同年同月十九日、陸軍大臣ニ対シ、租界問題ノ全面的處理、英國ノ援蔣

抗日政策等減ノ実践的方策確立、互相會議ニ於テ決定セル歐洲情勢対応

方策ノ明示ヲ要請ス

一 同年七月十四日、府下立川町立正俱樂部ニ於テ「英蘇打倒演説会」ヲ開催

催、日独伊軍事同盟締結、交戦権発動ニ依ル租界回收、東京会谈監視

ヲ決議ス

一 同年七月三十一日、日比谷公会堂ニ於テ「華英東亞民族大会」ヲ開催

(1) 東亞民族自立發展、障礙トナル旧秩序撤廃

(2) 租界、治外法権ノ撤廃

(3) 九ヶ國條約ノ廢棄

(4) 英國ノ在支優略權益ノ抹殺

(5) 即時交戦権ノ発動

(6) 日独伊軍事同盟ノ締結

(7) 支那新中央政府ノ樹立

(8) 日滿支國防ノ一元化ト英蘇ノ侵略防衛

(9) 日滿支経済ノ独立

(10) 東亞民族ノ結合

ノ十項目ヲ決議、首、外、陸、海相ニ提出ス、本大会ニハ、インド、フ

ィリッピン、中華民國及ビ回教代表モ加ハリ、中國新政府ヨリ祝電ヲ

寄セタ

一 同年八月四日及五日ノ兩日ニ亘リ、京都府聯合会主催、租界回收援蔣

國民打倒國民懇談会一ヲ開催ス

一 同月二十三日、緊急幹部会ノ結果、一独ソ不可侵條約ノ締結ニ依ル國際情

勢ノ變化ニ対スル党ノ態度ヲ決定シ左ノ決議ヲ政府ニ提出ス

△決議（要旨）

1 日本ハ英佛ガ独逸ノ圧力ニ依リテ改洲ノ足下ニ忙殺サレントスル際
毅然トシテ自主的方針ヲ堅持シ、滿天下ノ輿論トシテ曝露セル排英
外交ヲ遂行スベシ

2 日韓伊三國同盟ヲ締結スベキデアル

3 優柔不断ハ瓜テノ味方ヲ夫フ所以ナリ、速クニ排英具體方針ヲ確立
スベシ

一、同年同月三十日、内閣内閣成立ニ関シ一阿部内閣ハ一般ノ國民感情トハ
没交渉ナル硬直的存在デアル、然シ現状維持的技巧モ世紀的大勢ニ逆行
スルコトハ出系又、外交ノ立直シハ政治上層ノ精神ノ立直シヨリ着手セ
ヨトノ声明ヲ發表ス

一、同年九月、左記府縣議戦ニ臨ム基本方針ヲ決定シ、各支部ニ指令ス

1 東方会ハ右派ナル國民運動ヲ第一義トスルカ故ニ選挙第一主義ノ運動
ハナサツルコト

2 選挙ハ國民運動ノ一翼トシテ最も果敢ニ行フコト

3 選挙ヲ通ジテ東方会ノ主義能領及ビ時局ノ新情勢ニ対スル態度ヲ徹底
セシメ、時局ニ対スル國民ノ決意ヲ促スコト

4 スローガン

△一般スローガン

(1) 國民輔翼、天皇政治ノ顯現

(2) 戦時奉公ノ均衡化

(3) 革新ハ自治体カラ

(4) 勤勞ノ所、奉公ノ至誠

(5) 官治ノ革新、自治ノ再建

(6) 内閣ノ犠牲ヲ生カセ

(7) 臣細亞ノ解放、臣細亞ノ建設

(8) 尤ハ東方ヨリ

△都市政策スローガン

(1) 生産ノ基礎、労働力ノ健全性確保

(2) 経済統制ノ自主的合理化

- (一) 墾業補助政策ノ徹底
 - (二) 中小商工業者負担軽減資充
 - (三) 商工業組合共同事業拡充強化
 - (四) 下請業ノ合理化
 - (五) 最低賃銀ノ設定
 - (六) 金融債務調停ノ適正拡充
 - (七) 医療施設ノ社会化
 - (八) 百貨店税ノ増徴及ヒ商品目制限
 - (九) 工場衛生施設ノ拡充
- △ 農漁村政策スローガン
- (一) 国力ノ源泉、農村ノ健全性確保
 - (二) 戦時中早害國家保証
 - (三) 農村負債整理ノ徹底
 - (四) 農業金融機関ノ確立
 - (五) 農業団体ノ一元化

- (一) 國家委任事務費全額國庫負担
 - (二) 肥料、農具國家管理
 - (三) 土地價格稅新設、土地投機抑制
 - (四) 耕地引上禁止
 - (五) 適正小作料樹立
 - (六) 國家保証ニヨル全耕作地ノ自作農化
 - (七) 農村保健衛生施設ノ充実
 - (八) 蚕業対策確立
 - (九) 大陸移民政策ノ強化
- 一 同年十月四日、本部ニ聯合協議会ヲ開催左記決議ヲ行ヒ政府ニ提出ス
- 1. 貿易省設置反対
 - 2. 專任農相即時設置
 - 3. 發送電会社札種(官僚的経営)ト電力飢饉
- 一 同年同月十九、二十日ノ両日ニ亘リ本部ニ農村部会ヲ開催、左記大綱ヲ決定ス

1. 農地制度改革要綱

- (1) 全農地ヲ自作農化ス
 - (2) 自作農地ノ爲土地公債ヲ地主ニ交付ス
 - (3) 土地買取ニ応セサル地主ニハ土地收用法ヲ適用ス
 - (4) 創設サレタル自作農ハ收養ノ一割ヲ公債償還ノ爲國家ニ納入ス
 - (5) 自作農一戸ノ基本經營面積ハ独立ノ生計ヲ営ミ自作農經營ニ必要ナル面積タルコト
 - (6) 自作地ハ原則トシテ讓渡貸付又ハ物權設定ヲ爲スコトヲ得ズ
 - (7) 自作農ハ相続者及ビ經營者ナキトキハ農業裁判所ノ決定ニヨリ適當ニ処理ス
 - (8) 自作農地ハ世襲トス
 - (9) 農業裁判所ノ設置
2. 移民政策ノ拡張
- (1) 生産力ヲ基調トスル國土計画ノ樹立
 - (2) 大陸移民ノ積極化

3. 肥料対策

- (1) 必要肥料ノ輸入制限撤廃
- (2) 自給肥料ノ積極奨励
- (3) 肥料配給ノ一元化

4. 食糧対策

- (1) 配給機構ノ整備統一(專賣制ノ採用)
- (2) 国外米輸入

一、昭和十五年一月二十二日、「淺間丸事件」ニ關シ緊急全体會議ヲ開催左記決議ヲ行ヒ茲、外、海相ニ提出ス

△決議 日本ハ支那事變三年ニシテ尙交戦權ヲ発動シ得ズ英米佛ノ後蔣政性行動ヲ放任シ日本近海ニ於テ英國ノ行戦權行使ヲ默認スルハ帝國一大恥辱ナリ之レ畢竟政府ノ英米媚態ガ將來ニタル國辱ニシテ我國ハ日本人ノ魂ニ斷ハ斷シテ容赦セズ政府ハ速カニ左記決断ニ出ツベシ

1. 速カニ交戦權ヲ発動シテ支那及ヒ日本近海ニ接隣第三國就中英國艦

船ノ立入ヲ遮断スベシ

2. 帝國海軍ハ其ノ威信ト名譽ヲ世界ト全日本國民ノ前ニ顯示スベキ斷

々タル態度ヲ採ルベシ

3. 淺間丸船長ヲ処分スベシ

一 同日、全國青年代表者會議ニ於テ「淺間丸事件」ニ關スル緊急動議ヲ提出、左記決議ヲ行ヒ首、外、海相ニ提出ス

△決議 英國軍艦ノ東京灣頭ニ於ケル淺間丸臨檢無人船客並致事件ハ帝國ノ威信ヲ失墜シ甚シク國民ヲ侮辱シタリ、吾等憤激措ク能ハス、政府ハ獨ク國民意志ニ忝ハサル取柄外交ヲ一擲シテ交戦權ヲ行使シ此種事件ノ再發ニ備ヘ帝國海軍ノ存在ヲ世界ニ確認セシムベシ 東方會青年代表ハ全國民ノ名ニ於テ本問題ニ對スル政府ノ責任ヲ問フモノナリ
一 同日二十三日、青年行動隊員二百四十名英國大使館包圍デモヲ敢行セントモシモ警察官ニ阻止セラレクル爲靖國神社ニ恭拜後十六名ノ代表者ヲ選ビクレーギー大使代理者ト會見正記要求書ヲ提出ス
△要求書 英國軍艦が淺間丸船客ヲ拉致シタル事件ニ付全日本國民ノ名

ニ於テ次ノ要求ヲ提出ス

1. 英國政府ハ淺間丸ヨリ拉致シタル船客客二十一名ヲ即時大日本帝國ニ引渡スベシ

2. 英國政府ハ大日本帝國ノ國威ヲ踐踏シ面目ヲ汚辱シタリ、臣カニ大日本帝國政府並ニ大日本國民ノ前ニ陳謝スベシ

一 同日、青年行動隊員ハ英國大使館附近ニ「封鎖宣言」ト題スル左記ビラヲ撒布ス

△封鎖宣言 我等ハ淺間丸事件ノ屈辱ヲ招来シタル平沼、阿部、米内々閣ヲ糾彈スルト共ニ政府ニ信ヲ持タズ、我等ハ全國民ト共ニ我等ノ主張ヲ行動ニ移シ英大使館ノ封鎖ヲ斷行シ拙人船客ノ引渡ト日本國民ニ陳謝スベキコトヲ要求ス

一 同日、淺間丸事件ニ關シ、英國糾彈ノポスター並ニビラ數種類ヲ發行ス

一 同日二十七日、中野支部ハ中野本郷小學校ニ於テ「淺間丸事件批判演說會」ヲ開催ス

一 同日二十八日、本部及ヒ茨橋支部主催ニヨリ茨橋公會堂ニ於テ「國辱淺

圓丸事件大演説会に於て開催ス

東方文學社

世田谷区上北沢町二ノ五一〇

創立者 高橋芳次郎

代表者 高橋芳次郎

東洋新聞社

世田谷区村町四ノ五

創立者 八幡澤堂

代表者 八幡澤堂

東洋精神文化研究會

世田谷区金玉町七五

創立者 諸田 存

代表者 諸田 存

統一青年社

神田区小川町一ノ一〇 東京鋼業ビル

創立者 昭和十五年四月十七日

元皇民協同黨員工藤覺、新井靜雄、三木政雄ノ三志ヲ設立シテ出版關係田休テアル

細 領
役 員
會 員
活 動 状 況

工 藤 新 井 靜 雄 三 木 政 男

一、昭和十五年四月十七日設立、事務者必携ヲ出版ス
一、最近事務所ヲ撤去シ、無活動状態

獨 立 青 年 社

小石川区水道端町二ノ六四

創 立
性 格

昭和七年七月
創立當時ハ津久井龍雄、薩摩雄二、池田宏、野中貞、若田隆之助、馬場
園義馬、笠木良明、田口康彦等ヲ顧問トシテ活動シタルモ目下有名無実ニ
シテ、兒玉蒼士夫ハ與亞青年運動本部ニ據リテ活動ス
一、軍皇愛國ヲ以テ我等ノ愛國原理トス
二、利己意識ノ發露タル資本主義制度ノ剝奪ヲ期ス
三、財閥ヲ背棄トシ、一党一派ノ利害ニノミ神經過敏ナル國民僞國ノ政黨政
治ヲ拒否ス

細 願

役 員
會 員
活 動 状 況

社 長 兒 玉 蒼 士 夫
顧 問 笠 木 良 明

四、國体及道ノ赤色思想並ニ行動ヲ討滅シ、併セテ非日本的一切ノ兇惡思想
ノ掃滅ヲ期ス
五、堅韌淫靡ノ風潮ヲ擊破シ、堅實剛健ノ士風涵養ニ努力ス
六、民主々義の議會中心主義ヲ排擊シ、天皇政治ノ實現ニ邁進ス

十 之 部

内 外 更 始 俱 樂 部

牛込区原町一ノ四

創 立
性 格

昭和三年八月一日
「更始俱樂部」ヲ改維シタルモノナリ

綱領 日本主義ヲ普及徹底セシメ、併セテ政党的改革ヨリ離脱シ、純正日本主義

ノ立場ヨリ政治問題ヲ論議スルヲ目的トス

役員 代表者 角田清彦

会員 五十名

活動 況動 「革新時報」(不定期) 休刊中

前責任者平野小剣死亡後無活動状態

南 洲 會 京 市

創立 昭和十五年七月六日

性格 皇道自治会々々長佐藤慶治郎が、新党運動ノ進展ニ鑑ミ、右翼団体ノ大同用

能ヲ行ツテ新政治体制ノ推進力ヲラシムベク、天照義田々員山下幸弘、水

島完之等ト計ツテ无耻伊大使白鳥敏夫ニ働きかけヲ結成シタ会デアリ

右翼団体ヲ推進力トスル新政治体制ノ確立ヲ目的トスル

役員 頭 白鳥敏夫
会長 佐藤慶次郎

山下幸弘 水島完之

活動 員

一 昭和十五年七月、芝山内南洲會ニ於テ白鳥敏夫外一部革新団体有志ト會

合、新党運動ヲ「維新党」ノ結成ニ迄推進セシムベキコトヲ申合ス

一同年同月十三日、皇道自治会「日の光」ニ現内閣ノ外交政策ヲ誹謗シ、

帰還兵ノ奮起ヲ促ス記事ヲ掲載シテ飛葉トナル

南 方 會

創立 昭和十六年六月

性格 有馬頼寧伯及び大日本赤誠会系ノ南進國策遂行ヲ目標トスル団体デアリ

綱領 趣意書

大東亜共栄圈ノ確立ハ今ヤ帝國不動ノ基本國策ナリ、之ガ實現ヲ見ルニ

於テ初メテ対支聖戰ノ意義先ウセラル、ト同時ニ、世界新秩序建設ニ對

スル皇國日本ノ光輝アル若算的貢獻又成就セラル、而モ内外情勢ハ最近

愈々趨迫ノ極ニ達シ我ガ倫安ヲ許サズ、一刻モ遅カニ南進政策ノ遂行ニ

向ツテ進進セザルベカラサルニ拘ラズ、何等カ躊躇逡巡ノ風アルハ遺憾ニ堪エサレ所ナリ

我等同志茲ニ起テテ朝野ヲ鼓舞シ、南方國策ノ即時實踐ヲ開始セシムベク全カチ場サンカ爲盟ヲ約シ、南方会ニテ結成セントス

南方政策ハ基ヨリ我ガ世界政策ノ一端ニシテ、之カ達成ノ爲ニモ日独伊三國同盟ノ加速度的ナル強化ト、嚴肅ナル履行ヲ以須トスルハ論ヲ俟タズ、内ニアリテハ昭々タル大政翼賛ノ大道ヲ益々純正強化スルニ依リテ

憲政革新ヲ断行シ、以テ國家總力ノ發揮ニ萬全ヲ期スベキナリ

多方ノ志士冀クハ吾等ノ微衷ヲ酌ミ、末リ携ヘテ邦家ノ愈ニ魁ケラレンコトヲ

盟約

我等同志茲ニ相合シテ盟ヲ約シ、左記條々ノ貫徹ヲ期ス

一 大東亞共榮圈ノ確立

一 日独伊三國同盟ノ強化

一 大政翼賛運動ノ純正強化

役員

一 國內諸体制ノ革新

顧問

橋本欣五郎

有馬頼寧

笹岡采雄

吉田秀人 (日清生命社長)

佐田 采雄

土橋國利 (日本高田浪重役)

高木友三郎 (外交協會理事)

田中 弘善重 (宿務デパート)

杉山 謙治

常任幹事

末岡 恭

杉山 謙治

服部 實雄 (陸軍中尉)

幹事

中川 秀秋

松前 重義

森田 常遠

小川 喜一

藤原 繁太郎

有泉 茂

玉利 三之助

会員 二百名

二之部

二月會

小石川区水道端町二ノ六四

創立 昭和十三年二月二十六日

性格 一 見玉峯志夫ノ主宰スル団体ナリ

一 與垂青年運動本部ト關係ヲ有ス

役員 代表者 見玉峯士夫

岩崎 藤吉

吉田 彦太郎

渡辺 正義

青木 立男

会員 八名

一 昭和十四年八月十六日、青年日本運動本部、聖戰貫徹同盟ノ連名テ、「日
本軍軍事情報ヲ阻害スル凡ソル勢力ヲ打破セヨ」と記セル立看板百
本ヲ市内ニ掲出ス

一 最近活動休止

日滿經濟凋査局

表谷区代々木初台町七一九

創立 昭和七年十月十五日

性格 三宮ハ林銑十郎ト關係アリ、經濟問題ノ諮問ニ応ジ居レリ

綱領 日滿支ヲ通スル經濟事情ヲ研究シ、大陸政策ノ積極遂行ニ寄與スルヲ以テ

目的トス

書記長 三宮 維新

役員 一大阪、盛岡両市ニ連絡員ヲ置ク

一 「日滿經濟論壇」(月刊)ニ千乃至五千部發行

一 昭和十四年九月二十六日、大阪中三島公會堂ニ於テ「戰時經濟問題總講演
會」ヲ開催ス

日獨伊親善協會

神田區西神田一ノ二同盟會館

創立 昭和十二年十月

性 格 樞軸派

綱 領 日獨伊三國ノ親善關係増進ヲ以テ目的トス

役員 常任顧問 山本英輝

會長 小笠原長生

理事長 山本忠興

常務理事 正國秀 伊藤

金 員 活動

一 昭和十六年九月十五日、總當緒一朗述「証書奉戴日獨伊三國同盟一週年」ト題スルパンフレットヲ発行ス

一 同月二十五日大阪中之島公會堂、二十六日京都、山公會堂、二十七日名古屋商業會議所、二十八日東京日比谷音樂堂ニ於テ日獨伊三國同盟一週年記念講演會ヲ開催ス

日獨伊軍事同盟締結要請全國青年聯盟

芝區西久保桜川町七 朝鳴莊内

創立 昭和十四年四月二十二日

性 格 日獨伊軍事同盟締結ノ要請カ高揚スルト共ニ、右翼中堅ノ期スルトコロハ、

一ツノ強カナル団体ヲ結成スルニアツタ。此ノ氣運ニヨリテ結成サレタノカ全國青年聯盟デアル

全國青年聯盟ノ組フトコロハ、主要団体ヲ網羅スル強カナル一大組織ヲ以テ輿論ヲ喚起スルト共ニ、政府ノ決意ヲ促サントスルニ在ル

メムバーハ右翼陣營ノ最急進分子、活動分子ヲ網羅シ、運動ハ全國的ニ波及セントスル傾向ヲ示シテキル（加盟団体三十余）

綱 領 宣言

東亞ニ於テ皇國ノ反響ニ逢ヒ、歐洲ニ於テ独・伊兩國ノ痛棒ヲ受ケツツアル英ソヲ主流トマル民主共産國族群ハ、其ノ侵略的成果ヲ保持セントシテ聯合的戦備ニ在奔シ、世界ハ大戰ノ風雲ヲマシテ將ニ飛龍一閃セン

トス、斯ノ如キ世界維新ノ天機ニ直面セル日本ハ、國體ノ本義ヲ明徹ニシテ心勝的國家總力發揮ノ体制ヲ確立シ、眞個聖戰ノ意義ヲ顯揚シテ、眞正ナル世界平和建設ニ邁進セザルヘカラス、サレバ萬邦無比ナル皇國ヲ中心トスル曰独伊軍事同盟ヲ實現シ、以テ民主主義國家群ノ國際的聯合勢力ヲ粉碎スルハ緊急不可缺ノ要務ナリト信ス、斯クテ外後蔣薩國ニ對シ皇國ノ斯キタル決意ヲ表明シ、独伊兩國ヲシテ皇國不変ノ信義ニ感奮セシムルト共ニ、内國體明徹、聖戰貫徹ノ國民的信念ヲ昂揚スルコトヲ得ベシ

吾等ハ茲ニ此キ夕ル日本主義青年運動ノ本質ニ準據シ、曰独伊軍事同盟締結要請ノ全國的運動ヲ展開シ、不逞不撓目的達成ニ精進センコトヲ期ス

スローガン

- 1 皇道世界維新達成
- 2 聖戰眞義徹底明徹
- 3 八能一手理想實現

4 世界維新即座ノ体制ヲ確立シテ皇紀二千六百年ヲ迎ヘヨ
 5 東亞、歐洲ノ新秩序ノ建設ハ曰独伊ノ結合ヲ以テ
 6 皇軍ノ血ヲ流サンメソ、アル後蔣英佛蘇ハ我カ敵國ナリ
 7 世界ノ動乱ニ備フル曰独伊軍事同盟、内外維新ノ神機曰独伊軍事同盟ヲ締結セヨ

役員

相談役

井田 磐楠	井上 清純	若田 富美夫
今泉 定助	入江 禮矩	板橋 菊松
本間 憲一郎	奥山 八郎	大林 一之
渡辺 良三	佐木 良明	狩野 敏
鹿子木 貞信	河本 幸枝	吉田 益三
宅野 田夫	田辺 宗英	田鍋 安之助
宇都 喜良久	梅津 勘兵衛	葛生 能久
安田 鏡之助	松永 茂	松本 勇平
松田 演輔	増井 潤一郎	前田 虎雄
藤沢 親雄	小林 順一郎	香濱 局

会 員
動 況

一、昭和十四年四月二十二日赤坂三會堂ニ於テ結成大会ヲ開催、宣言、決議ヲ行ヒ、首、外、陸、海軍各大臣及ビ独伊兩國大使ニ提出ス

二、同年五月二日ヨリ同六日迄、市内五箇所ニ於テ演說会ヲ開催ス

三、同年同月九日横浜市神奈川會館ニ於テ關東大会ヲ開催聲明文ヲ發表ス

四、同年同月十一日日比谷公會堂ニ於テ全國青年大会ヲ開催、宣言、決議及ビ緊急動議ヲ可決、再ビ首、外、陸、海軍各大臣及ビ独伊大使館ニ提出ス

可決サレタル緊急動議左ノ如シ

(1) ヲグヤ人排撃ニ關スル件

世話人

杉浦 應	關根喜四郎	持尾利久	峯岸秀行
智建 一甫	白井為雄	坂山啓郎	平野小飯
智建 克之	本橋才舟		

常任世話人

有馬 俊前	江川 元洋	深沢 源藏	松村 正義	薄井 巳亥	高畑 正	菅村 剛	川原 信一郎	小崎 一誠	丹羽 五郎	板倉 弥三郎	下位 春吉	佐々井 一泉	佐藤 忍	後川 武治
菊池 弘泰	恩良 千秋	船生 利量	前田 芳藏	山下 幸弘	永島 文雄	米持 格夫	影山 正治	與戸 足百	友綱 早一	飯島 興志雄	四王 天延孝	荻田 幽喜	佐川 良一	天野 辰夫
三武 鏡史	赤尾 義規	古閑 義規	藤村 又彦	松尾 九州男	中川 裕	米村 長太郎	片岡 駿	川上 政好	徳田 整三郎	西本 喬	鈴木 一朗	三浦 義一	春藤 源内	佐藤 慶次郎

(四) 人民戰線結社ニ対スル解散要請ノ件
(ハ) 國內親英派排撃ニ關スル件
(ニ) 日独伊軍事同盟締結祈願隊結成ノ件

五、前記祈願隊結成ノ件ハ四國代表三木忠照(聖戰實徹同盟)ノ提出セルモノデアルガ、三木ハ其ノ後此ノ件ニ対スル常任世話人会ノ態度ヲ不満足ナリトシテ同月十五日夕刻ヨリ白装束ニ身ヲ固メ靖國神社ニ参詣断食祈願ヲ始メタ、十六日夕刻迄ハ香川縣香川郡直島村神職ニ宅親達同行祈願シタガ、十七日朝カラハ本間憲一都方ノ書生小平昌次ケ同行断食シタ、然シ靖國神社及ビ憲兵隊カラノ注意ヲ受ケ一旦中止シタガ、二十三日午後五時カラ明治神宮神死内旧御殿球場ニ参籠社務所ノ諒解ヲ得テ六月四日迄二十一日間ノ断食祈願ヲ行ツタ、此ノ件ニ關シ大日本俱樂部ハ全國同志ニ声援ノ概ヲ飛バシタ
六、同年同月十七日、十九日及ビ二十一日市內各所ニ立看板並ニポスターヲ掲出ス
七、同年同月二十七日海軍記念日ヲ期シテ大原市天王寺公園ニ開西大会ヲ開

解散

催進言及ビ決議ヲ行フ、公衆若ニ千名
八、同年同月二十日以降全國各都府市ニ地方演説会ヲ開催、中央ヨリ辯士ヲ派遣ス
日独伊軍事同盟締結要請全國青年聯盟ハ結成以來活潑ニ活動ヲ展開シテ其夕カ、同年六月二十八日ノ常任世話人会ニ於テ解散論ガ抬頭シ、一部ノ諒解論ヲ庄シテ遂ニ七月七日解散大会ヲ開催シタ、其ノ間ノ消息ハ左記声明ニ依ツテ明白デア
声明

我等ハ日独伊軍事同盟カ皇國維新、聖業貫徹ノ絶対要件タルコトノ原義ト、而モソレガ親英派自由主義勢力ノ現状維持、維新阻止ノ爲ニスル陰謀策動ニ依ツテ妨害セラレソ、アレ現状トニ鑑ミ、政府ヲシテ凡ソル制肘ヲ廢シ、此ノ國策断行ニ轉弱ノ責任ヲ先ウセシムベク、全國同愛ノ士ヲ糾合シテ日独伊軍事同盟締結要請全國青年聯盟ヲ結成シ、東京ハ基リ全國ニ亘リ要請運動ヲ展開シ、当局ヲ激励シテ末ツタノデア
然ルニ今日ニ至ル迄凡ソル形ヲ通シテ披瀝セラレタル皇民ノ熱誠ト厚望

ニモ拘ラス廟堂ノ議決セズ、親英派ノ奸謀ニ操縱セラレテ國是尙樹タザルノ現状ニアル、即チ不明朗ナル五相會議ノ小田原評定ガ未ダニ具體的ナル歐洲情勢対処方針、即チ日独伊軍事同盟締結ナル唯一結論ニ到達セザル奇怪事案ハ平沼内閣ノ本意ヲ曝露シテ餘蘊ナシ矣、斯ル誠意ト能力ナキ平沼内閣ニ対シ、此上同盟締結ヲ要請シ期符スルハ憲ニ本ニ據リテ魚ヲ求ムルガ如キ愚劣タルコトヲ知ラネバナラナイ

最早我等ハ平沼内閣ニ対シテ何物ヲモ要請シタリ期待シタリスベキデハナイ、要請スベキモノアリトセバソハ唯一ツ、速カナル其ノ返却デアリ總辭職デアアル、我等ハ皇國ノ國運ヲ決定スベキ重大事タル日独伊軍事同盟締結ヲスラ狐疑逡巡スル平沼内閣ニ対シ、絶対不信殊ヲ宣ムルト共ニ後ニ来ルモノハ如何ナル内閣トモモ三國軍事同盟ヲ實現シ得ル内閣ニアラザレ限リ、我等ハ其ノ存在ヲ一刻タリトモ許サハルベキデアル而シテ此ノ秘致ヲ、日独伊軍事同盟締結要請全國青年聯盟一ヲ解散スルコトハ、即チ平沼内閣及ビ之ヲ德慮トスル現状維持支配陣營、親英派勢カニ対スル能弁兼年協ナレ戰ヲ徹底シテ戦ヒ抜カントスル決意ノ表明ニ

外ナラヌ

最早ヤ一要請ノ時期ハ過キタ、全皇民ノ燃上ル天皇恭護、皇業發揚ノ臣道の道義的戰鬥精神ノ一大結集ト、之ヨリ近発スルカニ依リテ、國內幕府の勢力ノ中絶ヲ突破擊碎スルニ非ズンベ、内外國患ヲ防クベクモ非ズ、皇軍聖戰ノ眞目的ヲ貫徹スベキモナキ現実ノ情勢ニアル、我等ハ重臣財閥ノ走狗タル現状維持内閣ニ日独伊軍事同盟ノ締結ヲ要請スルコトノ愚ヲ確認スルト共ニ、唯神明ノ御照覽ト、陛下ノ御稜威ノ下ニ、皇民ノまことトすビト不返轉ノ戦ニ依リテ此ノ緊急國策ノ實現遂行ヲ期スルノ決意ヲ聲メタノデアアル

斯クテ日独伊軍事同盟締結要請全國青年聯盟ノ解散ハ、我等ノ敗北ヤ後退ヤ妥協ヲ意味スルモノニ非ズンテ、ヨリ強固ナル戰鬥部隊結成ノ爲ノ積極的意義ヲ有スルモノナルコトヲ天下ニ宣言スルモノデアアル

△日獨伊軍事同盟達成全國青年聯盟

芝区愛宕町一ノ二 大日本俱樂部内

創立

昭和十四年七月二十五日

日独伊軍事同盟締結要請全國青年聯盟ハ、軍事同盟締結要請運動ノ微温的ナルヲ辨シテ、七月七日解散ヲ声明シタカ、信賴シ得ル同志団体ヲ結成スベク摺建一甫、児玉蒼士夫、眞下定百、佐藤尚政、團根喜四郎ヲ準備委員ニ奉ゲ、準備ヲ進メテ結果、七月二十五日ニ至リテ結成大会ヲ奉ゲタ

綱領

宣言

聖戰目的ノ達成ハ、英蘇ノ打倒ヲ先決條件トス、之カ爲ニハ内、自由主義的諸体制ヲ擊破シ皇國本然ノ國家体制ヲ確立スルト共ニ、外盟邦独伊兩國ト強カナル軍事同盟ヲ締結スベキノ緊要ナルハ言ヲ俟タズ、然ルニ澎湃タル皇民ノ輿論ヲ無視シ今尚其ノ實現ヲ見ザルハ我國內ニ現状維持親英米派勢力ノ跋扈シテ之ガ締結ヲ阻止シツ、アレハナリ

今ヤ、日独伊軍事同盟達成全國青年聯盟一ヲ結成シ、内外維新ノ神機ニシテ聖戰貫徹ノ現実的方途タル日独伊軍事同盟ノ達成ヲ期セントス

決議

一吾等ハ内外維新ノ神機、日独伊軍事同盟ノ達成ヲ期ス

役員

一吾等ハ親英恐ソ、現状維持勢力ノ粉碎ヲ期ス
一吾等ハ垂細重民族解放ノ爲、英ソノ打倒ヲ期ス

- | | | |
|--------|-------|-------|
| 團根喜四郎 | 摺建一甫 | 摺建克夫 |
| 片岡 駿 | 眞下定百 | 米持格夫 |
| 飯島興志雄 | 瀬尾 輝正 | 持尾利久 |
| 小黒 將水 | 藤村 又彦 | 船生利景 |
| 小笠原計三 | 森山 啓郎 | 古閑義親 |
| 小山 幸雄 | 川崎 祐資 | 江川 玄祥 |
| 板倉 孫三郎 | 柴崎 武徳 | 深沢 源三 |
| 児玉 蒼士夫 | 石川 忠 | 峰岸 秀行 |
| 永島 文雄 | | |

会 員

一昭和十四年七月二十五日、芝公園青年団会館ニ於テ結成大会開催、宣言、決議、世話人ヲ決定ス

一同年八月五日ヨリ、浅草、麻布、淡橋、小石川、荻谷、牛込ノ各所ニ於

テ左記スロ、カシテ揭ゲ、討英撃ソ演説会ニヲ開催シ、立看板、ビラ等
 モ散布ス

(1) 軍事同盟ヲ実現シ得ザル内閣拒対反対
 (2) 重細軍解放討英撃ソ
 (3) 親英恐ソ現狀維持勢力ヲ粉碎セヨ
 (4) 内外維新ノ神機日俄伊軍事同盟ヲ締結セヨ
 (5) 敵英國ヲ相手ノ東京会談拒対反対
 (6) 世界大戦ニ對処スル海戰時体制ヲ確立セヨ

一 同年八月十二日、關西事務局ハ、「討英トハ國体明徹戦ナリ、討英ニ邁進
 スル爲先ツ國內ノ英國的存在ヲ清算セヨ」トノ宣言書ヲ五相會議閣僚ニ
 送附ス

日本海員組合

一 昭和十五年一月二十三日、淺間丸事件ニ關シ左記聲明ヲ發表ス

△聲明 淺間丸渡部喜貞船長ノ採リン行爲ハ兩國ノ威信ヲ傷ツケルコト
 甚大且ツ國威振盪ニ生命ヲ賭シテ願ミサル日本船員ノ辱恥ニ背ク、依
 ツテ我等ハ世界ニ雄飛スル技國船員中ニ斯ル國民的心構ヲ缺如セル者
 ヲ出シタル原因ヲ究明シ將吏ニ謬チナカラシムコトヲ期スベク關係當局
 ニ要望スルト同時ニ、願ク日本船員全体ニ對シ今後光輝アル辱恥ト使
 命達成ニ邁進シテ此ノ汚辱ヲ雪クベク注意ヲ喚起スルモノナリ

一 同日同日、「討英大会」ヲ開催ス

一 同日二十五日、横浜支部ハ太平洋ヲ母國ニ向ケ航行中ノ銀洋丸及ヒ白山
 丸ニ對シ「淺間丸船長ハ靈峰富士ヲ前ニシテ武力ニ抗シ得ズ独逸人ニ十
 一名ヲ英艦ニ引渡セリ、我等ハ櫻城船長ガ世界ニ化類ナキ神國日本ノ威
 信ヲ傷ケシヲ長歎ス、白山丸、銀洋丸兩船々員諸君ヨ、海賊船若シ武力

ヲ行便スルコトアラバ從容死ニツクベシ、海國男兒ノ誇リ茲ニアリ、
 ラバ萬歳海國男兒ノナル激勵電ヲ發ス
 一 同月、新潟出張所ハ本部及ビ郵船本社ニ対シ淺間丸船長ノ処分ヲ要求ス

日本經綸學盟

中野区江古田町一ノ二七七。石川方

創立 昭和十二年一月二十日

性格 一 「日本經綸學盟」ハ國家社会主義ノ先驅故高富素之ヲ創設セシモノニシ
 テ、石川ハ其ノ門下ナリシ關係高富死後名稱ヲ繼承ス
 一 本學盟ハ「大日本國家社会党」ノ別働隊ナリシモ、宮下、山内、鷺野等
 ハ離散シ、現在石川ノ個人団体ト化ス

御領

役員 主幹 石川準十郎
 同人 宮下為友 山内一夫 鷺野年太郎

會員 十名

地位

日本皇政會

小石川区雪籠町二三七

創立 昭和五年十月十七日

性格 今泉定助ヲ中心トスル純正日本主義団体ナリ
 御領 一 日本建國ノ基キ、天皇親政ノ大義ヲ宣明ス
 一 天皇親政ノ天訓ニ悖ル不良思想一切ノ掃滅ヲ期ス
 一 天皇 神慮及ビ國體觀念ヲ明徹ニシ、民心ヲ統一ヲ期ス

役員

會長 今泉定助
 理事長 小谷文春
 理事 川原 弘 國井壽彌 相原春吉
 古賀義秋

會員 約二十名

地位

滝野川町馬場五一二ニ附屬柔道々場ヲ有ス
 一 昭和十四年十一月九日、日比谷公會堂ニ於テ會長今泉定助壽壽祝賀ノ為

「皇道發揚記念講演会」ヲ開催ス

日本皇民軍

中野区大和町二七四 四喜方

創立 昭和八年六月十二日

創立 柱格

主幹 四喜 六郎

顧問 伊藤 博文

幹事 竹内 通水

内藤 順太郎

口村 田邊之助

諸富 一郎

河田 友平

(608)

状況 会員 百名

日本國家學會

麻布区新竜土町一 新民会内

創立 昭和十三年五月二日

昭和三十二年五月二日 藤澤親雅等ヲ指導者トスル學生ノ日本主義研究団体トシテ結成セラレタリ

モノデアルカ、地方青年層ニ会員ヲ獲得シテ政治的ニモ進出シ、又昭和十四年一月以降滿洲國ノ協和会、北支ノ新民会トモ接近シタ

役員 領

會長 藤澤 親雅

理事 佐藤 勝光

委員長 大森 恭之

委員 上野 清臣

委員 佐藤 秀夫

他 九名

土屋 坦 横 岡 虎 雄

(609)

状況 会員 約五十名

昭和十四年七月、都下私立各大学ヨリ選拔セル學生視察団ヲ滿洲及北支ニ派遣ス、其ノ目的ハ日滿支協同体理念ニ立脚スル大陸ノ実地視察ト其ノ検討並ニ新民会、協和会トノ母體ニ在リ

日本國體學會

武藏野町関前 一六八

創立

性 格 創 立
細 員 役 員 會 員 活 動 状 況

代表者 里見岸雄

日本國體研究所

昭和十三年十二月一日

一 耕田エヲ中心トスル左翼取向着ノ団体ヲ、「國民建設新聞」ヲ通ジ、道友

組織ニ依ル

一 川崎聖雄、尾崎聖等ノ主宰スル「日本建設協會」ハ之ヨリ分離シタモノ

デアル

左記經濟政策ノ遂行ヲ期ス

一 米及並ニ肥料其他重要生活必需品ノ生産並ニ配給ノ徹底的國家管理

細 員

性 格 創 立
細 員 役 員 會 員 活 動 状 況

主 幹 榎 田 工

八 國民各個ノ消費生活ノ規制

七 耕地ノ國有又ハ社会化

六 以上ノ諸政策ノ遂行ニ依ル底物價政策ノ貫徹

五 勞働力配分ノ徹底的計畫化

四 航運ノ徹底的計畫化

三 電力國家管理ノ徹底

二 石炭並ニ鐵ノ生産及ニ配給ノ徹底的國家管理

昭和十四年五月十五日、「國民建設新聞」創刊（月二回、一部五錢）

一 昭和十四年八月二十六日、独ソ不可侵條約締結ニ関シテ研究所ノ態度ヲ

明カニスル兩報均々全國道友ニ送又、其ノ要旨ハ「反英的政策ヲ根本

トシテ、獨ソ態度ヲ是認シ、日独軍事情勢ヲ歸結シ、更ニ米國トモ親

善關係ヲ保持スベキヲアル」トシテアル

一 同年十月十五日付「國民建設新聞」ニ於テ外務省紛争問題ヲ取上げ、曰

本ノ内藏スル矛盾ノ一表現デアツテ、無外交状態ノ清算、阿部内閣ノ親英外交ニ対スル反対カ斯ル紛争ヲ齎シタ、然モ其ノ結果カ發展ノ意義ヲ有シ得ナカツタコトハ正シク國民的政勢カノ組織ノ欠如ニアツタート主張ス

一、同年九月、府縣會議員選舉対策方針ヲ左ノ如ク決定ス

1、議會制度ハ封建政治ヲ清算セル政治制度トシテ尊重スベキデアル

2、然シ現在ノ民主主義政治ハ國体理念ト背致スル

3、従来ノ民主政治ハ一部ノ特権分子ヤ財閥代表カ民衆ノ名ヲ藉リテ國体

政治ヲ歪曲シテキタ

4、地方全民衆ノ間ニ於テ最モ信望ノアル指導的人物ヲ選出スベシ

5、維新新行ハ既成勢力ニ求メズ、民衆ノ自發的動因ニ求メル

一、同年十一月、餅田工、尾崎世、川崎堅雄、岡本某等ハ全國ヲ行脚、

諸国会開催ノ方法ニ依リ趣旨ノ普及、會員獲得ニ努力ス

一、同年十一月、機關紙「國民建設新聞」ニ左記主張ヲ掲載ス
我々ハ國民的政勢指導力能成ノ準備活動トシテ地方指導ノ組織的中核

体確立ヲ提唱シタガ、偉大ナル反響ヲ喚起シテ全國民ノ要望トナリリツ、アル、全國的指導勢力ノ組織、活動並ニ組織方針草案ハ起草中デアルカ、指導勢力結成大会ニ向リテノ中央、地方ヲ通ズル一大國民運動ヲ展開スル、此ノ場合特ニ、工場、農村、商店、官廳、地区等國民ノ生活部面ニ活動スル道友ノ責任ト決意カ強調サレネハナラナイ、我々ハ既成勢力ノ寄集メヲ排斥スル、然シ革新団体トノ提揚ハ在否シナイカ自主的体制ノ上ニ立ツコトカ必要デアル

一、同年同月二十日、「國民建設新聞」外「」ヲ發行「食糧ト農業生産確保ノ爲

ニ全國民ハ一丸トナツテ建設運動ニ起テ」ト題シ、ナホ「西日本各村ニ

早害対策同盟ヲ作レ」ト提唱シ、之カ指導員トシテ川崎ヲ派遣ス

一、同年十二月十四日、敬神行事トシテ所員、明治神宮日拜ヲ開始ス

一、昭和十五年一月六日、尾崎一派分譲シテ「日本建設協会」ヲ創立ス

日本護國黨

四谷区傳馬町一丁目五傳馬ビル

創立 昭和十五年四月二十九日

此格 元東亞經濟同志會政治部長、やま新聞記者山口幸輝、やま新聞記者宮武逸、元やま新聞記者東重日々新聞記者中留秋彦、元読賣新聞記者小倉誠一等が結成シタル政治結社アアル

綱領 宣言

肇國以來一君萬民ノ國是ヲ堅持シ、不羈運往以テ國威ヲ顯揚シ茲ニ皇紀ニ千六百年ヲ迎ヘタルハ、蓋シ奉國大和合ノ精華ニ外ナラズ
 今ヤ東亞ヲ護ル諸般ノ情勢ハ極度ニ逼迫ヲ告ゲ、刺ハ赤鬼白魔ノ觸手ハ我手傍觀ヲ許サズ、大和民族緊蹙ノ瀕起ヲ俟ツヤ急ナリ、吾人ハ斯ル現
 實ニ鑑ミ茲ニ忠義義膽ニ躍動スル憂國ノ志士仁人トノ結合ヲ図リ、東亞民族存続ノ鴻業達成ノ爲不退転ノ決意ヲ固メ、以テ萬邦無比ナル我國体ノ顯現ヲ昂揚シ歴史的使命ヲ完ウセントス

綱領

一天皇ハ絶対ナリ、吾等ハ身命ヲ賭シテ忠節ヲ誓フ
 一世界制覇ヲ目指シ皇國日本ノ榮耀ヲ期ス
 一國体ノ本義ニ基ク思想統一並ニ健全ナル國家建設ニ邁進センコトヲ期ス

役員

一國体態勢ノ確立ヲ期シ聖戰目的達成ノ爲奮闘ヲ期ス
 一戰時計画經濟ノ斷行ヲ實施シ國民生活ノ安定ヲ期ス
 一旧來ノ物産文明ノ弊害ヲ打破シ日本精神文明ノ進展ヲ期ス
 一日滿支提携ヲ強化シ東亞永遠ノ平和ヲ確保センコトヲ期ス
 一南方國防ノ充實ト南進政策ノ確立ヲ期ス

相談役 後藤 信夫 西野 邦三郎 海保 源之助
 波多野 繁藏 青木 舜定
 總裁 山口 幸輝
 副總裁 中留 秋彦 宮武 逸
 幹事長 中留 秋彦
 總務部長 友町 米藏 政治部長 中川 信一
 財政部長 菊地 健 情義部長 菊地 正美
 組織部長 宮原 三十四 遊說部長 川部 住量
 宣伝部長 豊田 新三 調査部長 米本 彦三郎

書記長 小倉 誠一
秘書長 福島 源作
幹事 野々村 孝太郎

他七名

日本産報奉行會

〒区三田四國町一五

創立 昭和十五年八月十八日

性格 昭和十五年八月十八日解散シタル「日本勤勞奉行聯盟」ノ後身デアル

御領 目的

- 一 本会ハ産業人ノ連絡、提携ヲ図リ、以テ産業ノ興隆ヲ期ス
- 一 本会ハ皇道精神ニ則リ、時局ニ適正ナル調査、研究ヲナシ、産業人ノ向上ヲ期ス

一 本会ハ産業報國運動ヲ支持シ、産業報國會ノ正常ナル発展ヲ期ス

役員

高山 久藏 森 栄一 今井 武吉
皆川 利吉

格

△日本勤勞奉公聯盟

〒区三田四國町一五

創立 昭和十三年十一月

本聯盟ハ、大正十五年「日本労働組合總聯合会」ノ結成ニ始マリ、東京、愛知、大阪、兵庫、埼玉等ニ亘リ組織ヲ有シ、自由聯合主義ニ基イテ、昭和六年結成ヲ見タル「全國労働大衆会」ヲ支持シ、治安維持法撤廃其他ニ活動シテ末タカ、其後従来ノ觀念ヲ變更シテ、大衆ノ実生活ニ即セル確信アル運動方針ヲ採ルニ至リ、漸次右變化シテ昭和七年一月「全國労働大衆会」ノ支持ヲ取消シ、同年五月「新日本國民同盟」ヲ支持スルニ至リタカ、更ニ昭和八年十二月「日本革新党」ヲ支持ニ變更シタ

一方労働運動方面ニ於テハ戦線統一ヲ目的ニ、「日本労働組合会議」ニ参加シタカ、昭和七年十二月東京聯合会拡大委員会ニ於テ「世界ニ卓越セル皇室ト國情ヲ認識シ、労働運動方針ノ基調ヲ忠君愛國ニ置ク」コトニ決定、メーデーヲ排撃シテ日本産業労働俱樂部ト共ニ労働祭ヲ奉行シ、爾来國体

明徴ヲ重點ニ置イテ全國ニ亘リニ万五千ノ會員ヲ獲得シ、支那事變發生後ニ於テハ政府ノ方針ヲ支持シテ出征家族ノ救済、國防献金、能率増進運動等ヲ展開シタガ、産業報國運動ノ進展ニ伴フテ昭和十三年十一月臨時大會ヲ開催組合ノ名稱ヲ「日本勤勞奉公聯盟」ト改メ、昭和十五年八月十八日「産報」ニ合流スル為解散ヲ決議シタ

日本社會問題研究所

牛込区新小川町二ノ八

昭和六年十二月

創立 性 格
 役員 代表者
 ナシ 仲侯富士太
 活動休止 高貴清一

日本主義研究所

赤谷区原宿町二ノ一七〇ノ八

昭和十五年一月二十五日

創立 性 格
 役員 所長
 約百五十名 松永 茂
 日本主義研究所ニモースラヲ発行 理事 米持 格夫

日本主義青年全國會議

赤坂区

昭和十五年十月十七日

創立 性 格

一純正日本主義浪人系ノ青年層ハ、國際情勢ノ逼迫ト、國內新體制運動ノ進展トニ呼応シテ、其ノ持論テアル撃ソ論ヲ主張スルト同時ニ、革新陣營ニ於ケル人民戰線的人物ヲ排斥シ、併セテ、新體制準備委員ニ就任シ

タル同系統ノ長老、井田磐楠、葛生能久、太田耕造等ヲ極力支援スル目
 的ヲ以テ、横断結成ヲ計画中デアツタガ、十月十七日赤坂三會堂ニ於テ
 「日本主義青年全國會議」結成大会ヲ開催シタ
 一参加団体ハ左ノ三十五団体ヲ、外ニ全國各府縣カラ百七十名ノ代表者ガ
 出席シタ

- 直心道場
- 皇道經濟研究所
- 巨要荘
- 愛國學生聯盟
- 大日本錦旗會
- 大日本青年同志會
- 大日本愛國義團
- 愛國青年聯盟
- 軍要地理研究會
- 神政社
- 神民荘
- 神新公論社
- 大日本木協會
- 萬民翼實體制確立聯盟
- 神代文化研究會
- 内外更始俱樂部

細領趣意書

英國的世界旧秩序ハ今ヤ完全ニ終止符ヲ打タレ、世界ハ歴史的大轉換ヲ
 通過シツ、アル、然シナカラ我々ハ、次ノ世界ガ、蘇、獨、米等ノ持ツ
 世界觀ニ依ツテ秩序ツケラレルモノトハ絶対ニ思ハナイ
 我々ハ日本ヲミテ眞ニ日本タラシムル皇道コリハ能ク掩フテ守トスル也
 ノ世界形成ノ原理デアルコトヲ確信シ、且ツ之ヲ民族的使命トシテ實踐
 奉公スルモノデアル

- 鶴鳴荘
- 大日本經濟聯盟
- 生風會社
- 皇維會
- 聖風社
- 單皇樓表旗盟
- 時局協議會
- 日太塾
- 大日本生産党
- 愛國評論社
- 雜新同盟
- 志道塾
- 國粹大眾党
- 建國會
- 傳劍莊

所謂新体制トハ、一世界新秩序ノ建設ニ指導的役割ヲ果ス爲ニ、皇國自ラ
運カニ新事態ニ即応スル不拔ノ國家体制ヲ確立スルコト一デアルトスル
ナラハ、如上ノ覺証ニ基イテ先ヅ日本自体ガ世界形成ノ原理タル日本歴
史ノ根柢ニ立返ツテ、最モ古クシテ然モ最モ新シキ眞体制ヲ樹立スルコ
トヲナケレバナラヌ、ソレハ復古剛子維新ナル大道デアアル、我々が新体
制運動ヲ以テ皇道翼賛、國体明徴ナリトナス所以デアアル
我々ハ日本ノ鉄魂ヲ揺リ動カシテ雄叫ブ神々ノ啓示ヲ畏ミ、茲ニ醇ナル
日本の自覚ニ立ツ全國青年ノ一魂一體ヲ打成シ、其ノ灼熱的ナル生命ノ
燃焼力ヲ以テ、神州日本ノ歴史的使命ニ直參シ、臣子ノ本分ニ生死セン
ト期スルモノデアアル

目的

本会ハ國体ノ眞姿顯現ニヨル眞体制ノ確立ニ寄與シ、以テ皇道維新ヲ翼
賛奉行スルヲ目的トス

實踐

本會ハ其ノ目的ヲ達成スル爲ニ先ヅ全國日本主義青年ノ一體化ヲ図リ、

宣言

目的遂行ニ必要ナル凡ソル實踐ヲ行フ

我等ハ皇國日本臣民ナリ

茲ニ祖先ノ遺風ヲ顯彰シ、八紘一宇ノ理想ヲ實現スベク、皇國日本ノ眞
姿顯現ニ邁進センコトヲ誓フ

宣言

世界ハ今ヤ未曾有ノ一大轉換期ニ直面シテ其ルカ、之ガ正導維新ハ修理
固成ヲ以テ其ノ歴史的使命トスル皇國日本ノ大任デアアル
謂フ所ノ新体制トハ此ノ如キ歴史的使命ヲ完成スベク、先ヅ日本自ラガ
皇國本然ノ姿ニ復古維新スルコトヲナケレバナラヌ、然ラバ其ノ原義ハ
絶途モ日本精神ニ立脚シ、皇國固有ノ大道ヲ踏ムベキデアアル、万一此ノ
至上無限ノ啓示ヲ遺忘シテ、権力國家ノ倭歴ヲ拜シ、或ハ霸國家ノ垂流
ニ墮シ、若クハ新体制運動ニ便乘シ以テ不純不義ナル巧利の野望ヲ逞セ
ントスル徒輩ノ跳梁ニ姿ネラレンカ、ソハ全ク皇威ノ發揚ヲ阻害シ、我
ガ民族ノ理想ヲ蹂躪スルハ惡逆ト言フベク、我等ノ斷シテ看過シ能ハザ

ル所デアル

決議

- 一我等ハ皇國日本ノ眞姿頭現ニ依ル維新翼賛体制ヲ主尊確立スル爲、全
- 國日本主義青年ノ有機的一體化ヲ期ス
- 一我等ハ皇道政治確立ノ爲、新体制運動ニ奮動スル爲裝幀向表、似而非
- 革新派、時局便乗派ノ折伏ヲ期ス
- 一我等ハ世界皇化ノ爲、聖戰貫徹ヲ期ス、

役員

常任世話人

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 西 郷 隆 秀 (直心道場) | 大 森 一 声 (直心道場) |
| 福 井 幸 (三六関係者) | 頭 山 秀 三 (天行会) |
| 松 木 良 勝 (愛國社) | 平 井 我 一 (愛國学生联盟) |
| 川 原 信 一 郎 (戦時体制強化聯盟) | 小 崎 一 誠 (大日本青年同志会) |
| 友 綱 早 一 (熱心社) | 菊 地 弘 泰 (神政社) |
| 三 武 鐘 史 (対支同志会) | 永 島 文 雄 (時局協議会) |
| 池 生 利 重 (大日本生産党) | 高 原 茂 一 (維新同盟) |

神保 幸三郎 (皇道経済研究所) 白井 爲雄 (大日本生産党)

事務局員

- | | | |
|---------|---------|-----------|
| 大 森 一 声 | 高 原 茂 一 | 皆 川 三 隆 |
| 白 井 爲 雄 | 永 島 文 雄 | 川 原 信 一 郎 |
| 松 木 良 勝 | 堀 玉 信 夫 | 高 野 忠 藏 |

状

動

- 一昭和十五年九月十一日、日比谷松本樓ニ於テ各派青年有志懇談会ヲ開催、趣意書、役員ヲ審議ス
- 一同年同月十二日、世話人会ヲ開催、左記決議ヲ行フ
- 一曰下進行中ノ新体制問題ハ其ノ本質ガ党ナルヤ又ハ國民運動ナルヤノ
- 点ニ関シテハ井田摺棉ガ準備委員会ニ提案セル「皇運扶翼運動」ヲ以テ最適トス
- 一都市ト農村ノ対立ヲ生セシメタル産業組合ノ累状見ルニ忍ビズ、責任者ハ速カニ公職ヲ去リ進退ヲ明カニスベシ
- 一同年十月十七日、赤坂三會堂ニ於テ結成大会ヲ開催、宣誓、宣言、決議ヲ行ヒ、常任世話人及ヒ事務局員ヲ決定ス

日本主義文化同盟

昭和十二年九月十二日

麹町区内幸町二ノ二 商興ビル

創立 性 格

代表者

委員 倉田百三

林 房雄

田 友雄

影山正治

窪田雅章

白 井 爲 雄

長谷川幸雄

林 貞四郎

会 員

五百名

文化雜新(月刊)一千五百部發行

日本新聞社

麹町区有樂町 日本閣

創立 性 格

代表者

佐藤天風

日本臣民黨

創立 昭和十五年十月七日

性 格 一 稻田秋成ヲ中心トスル団体デアル

一 中小商工業者ヲ対象トス

綱 領 宣言

祖国日本ノ現実ハ、内真政治体制ノ確立、外眞重生命國ノ建設ニ当面シ、
熱烈ニ維新ヲ要望サレツ、正ニ聖戰四年、奉國ノ大理想ニ則ル皇國民ノ
覚悟前線ノ奮闘ヲ切実ナラシムルハ學口向傍ニ存ス
今ヤ旧来ノ資本主義ノ露骨ナル巧利性ヲ断滅スルト共ニ、共產、民主、
自由主義ノ旗幟ヲ撃破掃討スルナクンバ皇戰完遂ハ望ムベカラズ

吾人同志ハ二年前皇道ノ大義ニ副ヒ、奉公ノ誠ヲ致サントシテ皇道家族主義、日本臣民党準備会ヲ創立シ、名実伴フ全國的運動ヲ目指シテ戦ヒ

来レリ
然ルニ時艱重疊ノ今日、唯準備会タルヲ許サレズ、以テ陣営ヲ整備シ、憂國挺身ノ同志結盟ノ下ニ、皇道家族主義日本臣民党ヲ結成シ、維新翼賛、難關打開ニ邁進セントス、全國同憂ノ士ノ参加協カラ望ム

綱領

- 一、及皇道的一切ノ守旧勢力ノ根絶ノ爲期フ
- 一、皇道ニ則リ、政治、経済、文化ノ一元的确立ヲ期ス
- 一、日滿支一体ノ國防國家ノ完成ヲ期ス
- 一、東亞新秩序(生命圈)確立ノ爲強カ外交ノ断行ヲ期ス
- 一、自由、民主、共產主義的世界旧秩序ヲ擊破シ、皇道世界新秩序ノ顯現ニ邁進ス

書記長 稻田 秋成
 中央幹事委員 壽山 武
 總務部長

公 益
活 動

同 組織部長	松原 乙之助
同 教育部長	巖谷 忠雄
同 文化部長	遠藤 幸悦
同 組合部長	細江 秋夫
同 國際部長	篠崎 弥作
同 経済部長	細井 曉

- 一、昭和十三年十二月十日、「日本臣民党結成準備会」ヲ創立ス
- 一、昭和十四年五月、「九國條約」ケロツク不戰條約廢棄並ニ租界撤廢要請書ヲ百外陸海相及七中華民國臨時政府、上海、天津兩市長、其他關係方面ニ發送ス
- 一、同年七月十三日、皇國維新同盟ト共同主催下ニ並飛行館ニ於テ「対英問題座談会」ヲ開催、左記決議ヲ行ヒ提出ス
- △首相以下閣僚当局ニ対スル決議

政府ハ一億同胞ノ總意ヲ反映シ、即時英國打倒ニ邁進スベシ

△英國大使ニ対スル勸告

英國ハ東京会谈ヲ以テ東亞ヨリ退去スル会谈トサレニコトヲ新國ノ爲

ニ勸告ス

- 一、昭和十五年十月七日「日本臣民」結党式ヲ禁グ
- 一、昭和十六年、稻田秋成、武山壽兩名死召ノ爲活動休止

法人日本青年協會

麻布区龜土町八
番地五、四一八

創格

一、政治性ヲ含マズ、教化、修養、青年教育ニ重点ヲ置ク

細領

一、大日本青少年團、翼發会中央訓練所等ニ於ケル青年教育ニ協力ス

役員

尊皇愛國ノ誠ヲ涵シ、敬神崇祖ノ念ヲ養ヒ、博愛共存ノ道ヲ篤ウシ、自治協同ノ風ヲ興シ、攻撃遷善ノ志ヲ旺ンニシ、実践躬行ノ実ヲ奉グ

會長 青浦奎吾
副會長 寺垣一成

會員

常任理事 岡屋龍吉 松村正員

青年學校指導員ノ再教育、海外進出青年ノ基礎的訓練等ヲ行ヒリ、アリ

日本青年外交協會

麹町区日比谷公園 市政會館内

創格 細領 役員

代表者 原 勝

會員 活動

日本道義精神振興會

芝区田村町一
國際觀光ビル
銀座三、五〇九

創格

役員

菊池武夫 野田蘭藏 木村清
森看人 廣田一三 鈴木栄太郎
松原彦八 大場吉五郎

会長

日本同盟會

麻布区辨町六八 盛田方

昭和七年五月二日

創立

常務理事

盛田

曉

大田

亮

柳田義之進

五百名

指導委員 白井 巖
審査委員 山口 鏡之助

状況

「日本同盟会報」 休刊中

日本農民組合

芝区琴平町二

虎ノ門会館
芝七〇六

創立

性格

平野力三 北山亥四三 恒次東洋雄
河田 弘 小野永雄 松沢 一

会員

日本民族社

芝区南佐久間町二ノ一

創立

性格

昭和十三年七月十日
大庭一ノ個人団体ナリ

役員
代表者

大庭 一

日本論叢社

京橋区銀座西八ノ九
銀座 九州ビル
五五七

創立
昭和十二年七月二十七日

五一五事件関係者及び「まこと」をむすび運動一関係者等ノグループである

役員
代表者

岩田 一
母田 鏡之助
中島 保雄
峰岸 四郎

会員
五百名

「日本論叢」(月刊) 二十四部発行

創立

日本革新黨

役員
代表者

赤松 克彦	佐々井 一男	小池 四郎
山崎 常吉	高山 久藏	神田 矢三
久留 弘三	石橋 彌	下位 春吉
倉田 百三	津久井 雄雄	大槻 正秋
坂本 耕三	西本 喬	會田 甚右
半谷 玉三	栗山 力	荻原 勝次郎
石塚 幸次郎	伊藤 信司	建川 美次

役員
代表者

一 昭和十四年四月十二日、本部ニ緊急總務委員会ヲ開催、中央物價委員会
決定ノ「物價統制大綱」ニ關シ、重大ナル缺陷ガ存在セル旨ノ決議ヲ行
七 首相以下全閣僚、大藏、商工兩次官、企画院次長並ニ中央物價委員
会々長池田成彬以下全委員ニ發送シテ其ノ補正ヲ要望セリ、同決議ニ於
テ指摘セル欠陥左ノ如シ

(イ) 利潤制限ノ規定カ無イコト

(ロ) 生産並ニ配給利潤ノ制限カ無イコト

(ハ) 發権的購買力抑制ノ規定カ無イコト

(ニ) 保險、銀行、信託等ノ機關ノ國策協力ヲ自由ニ放任シテキルコト

(ホ) 供給確保ノ爲ノ技術ノ最高能力發揮ニ積極的重点ヲ置イテキナイコト

一 同年六月三日、日独伊軍事同盟締結ト租界問題解決厚望書ヲ發表シ、

首、外、藏、陸、海軍大臣ニ提出ス

一 同年同月十九日、天津防衛司令官宛、租界封鎖ノ感謝電ヲ發ス

一 同年同月二十日、各府縣支部聯合会、支部ニ對シ、天津英租界隔絶政策

徹底的支持運動開始ノ件ヲ指令ス

一 同年同月二十八日、殷賑産業ノ購買力抑制並ニ消費節約ニ關スル要請書

ヲ各關係当局ニ提出ス

一 同年七月三日、本朝ニ緊急總務委員會ヲ開キ、天津租界問題東京会談ニ

關シ、斷乎タル決意ヲ以テ英國ノ敵性ヲ清算スベキ旨ノ聲明ヲ發表シ、

当局及ニ貴族兩院議員ニ送附ス

一 軍及ニ週年記念演說会ハ、日英東京会談開始ニ依ル排英氣運ノ醸成ヲ目

的トシテ、同年七月二日ヨリ同八月六日迄、東京、横浜、船橋、大塚、

福岡、札幌、帯廣、網走、釧路、野付等ノ各地ニ開催ス

一 同年七月七日、東京会談現地軍代表武藤少將以下東京驛ニ到着スルヤ、

代表佐々井一氣以下取頭ニ於テ強硬解決ノ要望書ヲ朗誦提出ス

一 同年同月十六日、本部ニ於テ拡大中央委員會ヲ開催、堂勢報告ノ後、

(イ) 日英東京会談發行ノ件

(ロ) 日独伊軍事同盟締結ノ件

(ハ) 現地視察隊派遣ノ件

(ニ) 江北銘支持、激勵電報發送ノ件

ヲ決議ス

右委員會終了後二百五十名ハ英國大使館前ニテモ行進ヲ行ヒ、靖國神社

ニ悉群解散ス

一 同年同月十七日、本所公会堂ニ於テ、英國打倒全國代表者大会ヲ開催

宣言決議ヲ行ヒ、翌十八日首、外、陸、海相並ニ英國大使館等ニ提出ス

一、同年同月二十九日、「日米通商航海條約廢棄問題」ニ関シテ總務委員會ヲ
開催、「米國ノ採リタル措置ハ年々友好關係ニ蝕ミテ不可解テモマル、
政府ハ宣敷ク米國ヲ反看セシムル措置ヲ講スルト共ニ、米國ニシテ肯セ
ズバ独自ノ見解ニ基キ断乎タル方針ニ出ツル旨ヲ通告スベキ」旨ノ要請
書ヲ可決、内閣及ビ米國大使館ニ提出ス

一、同年八月十日、「日独伊軍事同盟締結問題」ニ関シテ党務局會議ヲ開催、各
地方支部ニ対シ、「政府当局ニ要請電報ヲ送スルヤウ」指令スルト共ニ、
同十一日代表者ハ關係五相ヲ訪問要請書ヲ提出ス

一、同年同月十五日、「日独伊軍事同盟締結要請運動」ニ總派起セヨト題スル
檄文ヲ撒布シ及ビ立看板ヲ掲出ス

一、同年同月、東京市内及ビ全國各地ニ亘リテ「日独伊軍事同盟締結要請」
英國打倒演說会一ヲ開催ス

一、同年十二月二十七日、日本革新青年隊及ビ一部ノ有志離党ス

一、同年八月二十四日、知リ不可侵條約締結對策總務委員會ヲ開催、態度方
針ヲ決定シテ各支部ニ傳達セシモ、急業トナリタル爲、九月五日重ネテ

總務委員會ヲ開催、左記要旨ノ方針ヲ決定通過ス
△知リ不可侵條約締結對策方針

知逸カソ朕ト結ンダノハ背ニ腹ハ代ハラレヌカラデ日本ノ罪デアル、
若シ本年三四月頃日独伊軍事同盟が出来テ平タラ世界情勢ハ今日トハ
別個ノ動キヲシテエタデアラウ、恐ラク日本ハ國際情勢ヲ指導シ得ル
立場ニ立チ、支那事變処理モ、東亞新秩序ノ建設モ有利ニ展開シテ中
夕デアラウ

然シソレハ昨日ノ問題デアル、國際情勢カ如何ニ變化シヤウトモ、一
貫不動ノ我カ対外國策ハ、支那事變処理ト、東亞新秩序ノ建設デアル、
此ノ聖業ヲ妨害スルモノハ悉ク日本ノ敵デアリ、其ノ敵ハ即チ英米佛
蘇デアアル

仍テ左ノ方針ヲトル

1. 對英運動ヲ絶えず果敢ニ展開スルコト

2. 對蘇政策ハ履サズ、侵カセズノ方針ノ下ニ北辺防備強化政策ヲトル
コト

3 対樹的ニハ親英プロットト、自由主義陣営ヲ徹底的ニ粉碎スルコト
一 同年八月三十一日、本部ニ總務委員会ヲ開催、公認候補者ヲ決定シ、左
記スローカンヲ各支部ニ指令ス、(選挙ヲ通シテ國民大衆ノ時局認識高揚
ニ資スル方針)

(1) 革新的府縣会ノ建設

(2) 府縣会ヨリ現状維持勢力一掃

(3) 地方長官ノ短期更迭絶対反対

(4) 官僚独善絶対反対

(5) 院後諸団体ノ統一整備

(6) 團結力、總犠牲、戦争成全不許

(7) 國內戦時体制ノ完璧強化

(8) 東亞新秩序建設、國內革新断行

(9) 時局ノ判断議員ヲ選ベ

一 同年十月二十五日、産業労働政策委員会報告書「産労第一號」発行
一 同日、政費審議会長近々「一新著」新日本ノ理想ト姿」ヲ発行ス

一 同年同月二十八日、總務委員会ヲ開催、米穀不足対策トシテ肥料及ヒ農
村資材ノ配給、灌漑根本対策ヲ農林大臣ニ要請ス

一 同年十一月十三日、總務委員会ヲ開催、農村委員会設置ヲ決定ス

一 同年同月十九日、大阪中之島中央公會堂ニ於テ「産業労働関係西大会」ヲ
開催、「産業労働政策要綱」ヲ決定ス

一 同年十二月二十五日、「産業労働委員会」ヲ開催、低物價政策徹底、労働
従業員住宅問題、帝都交通地獄緩和ニ関シ意見ヲ交換、当局ニ要請書提
出ニ決定ス

一 同年十二月二十八日、「産業労働政策要綱」ヲ發表ス

△産業労働政策要綱

第一章 産業労働政策委員会ノ使命

第二章 客觀状勢ト産業労働政策ノ重要性

第三章 産業労働政策ノ根本方針

第四章 現段階ニ於ケル労働政策ノ重点

第五章 労働組織ノ問題ト産業報國會運動

附 労働力ノ不足ト保全ニ関スル件

1 労働力ノ不足

2 労働力不足問題ト其ノ対策

3 労働力保全ノ問題

一、昭和十五年一月八日、各支部ニ対シ、年頭ノ挨拶ヲ兼ネ、阿部内閣不信
任運動ヲ中心トスル中央政情ヲ報告ス

一、同日十日、各支部ニ対シ、第二回中央政局情勢ヲ報告シ、阿部内閣總辭
職ノ後ニ出現スル内閣ハ政局ヲ安定セシメ得ル巨大ナ実カヲ持ツタ革新
的新党ノ上ニ立脚スベキデアル旨ノ所信ヲ表明ス

一、同日十六日、各支部ニ第三回中央政局情報ヲ發送シ、米内々閣ハ多分ニ
金融取崩、親英米、現状維持内閣ノ色彩ヲ有スルガ我党ハ深刻ナル沈黙
ノ中ニ其ノ一挙一動ヲ監視シ近ク總務委員会ニ於テ態度方針ヲ決定スル
旨ヲ通達ス

一、同日二十三日、浅間丸事件ニ関シ、休会明ケノ機会ニ於キ赤松、小池西
代議士ヲシテ緊急質問ヲ行ハシメレコトニ決定、地方支部ニ通達ス（民

政党ノ及対ニヨリ貴問不能ニ終ル）

一、同日二十四日、浅間丸事件ニ関シ「帝國ノ國威發揚ト親英媚態外交ノ清
算」ヲ目標トシテ院内外ニ亘リ猛運動ヲ展開スルコトニ決定、左記声明
ヲ發表ス

△声明 浅間丸ニ対シテ加ヘラレタル英國軍艦ノ海賊的行為ハ我ガ國威
ヲ凌辱セルモノト言フベシ、我等ハ政府並ニ海軍当局ガ英國ニ対シ嚴
然タル威カヲ示サレンコトヲ要望ニテ止マズ

一、同日二十六日、浅間丸事件ニ関シ左記決議ヲ行ヒ、外務、逓傳兩名及ヒ
郵船本社ニ提出ス

△決議 新聞紙ノ報ズル所ニ依レバ郵船本社ハ商人船客ニ対シテハ英艦
ニ拉致セラル、モ差支ナシト一札ヲ入レサレバ衆船ヲ許サズトノ決
定ヲナシタル由ナルモ斯ノ如キハ帝國ノ權威ヲ自ら泥中ニ放棄スルモ
ノニシテ我等ノ絶対ニ反対スル所デアル

米館

況滋

在

京支部 (一三〇〇)

深川支部

小笠原静雄

牡丹町三ノ九

(昭和十四年十一月)

世田谷支部	古山	與	松原町三ノ六七
淡谷支部	栗山	力	代々木田原九六四
淀橋支部	幡野	義甚	下落合二ノ五七〇
四谷支部	市岡	孝	新宿一ノ六六
浅草支部	渡辺	円藏	芝崎町三ノ一
武藏野支部	小幡	経雄	北多摩郡武藏野境四六五
豊島支部	桶田	兵次	堀ノ内一〇四
日本橋支部	宮下	淳	箱崎町二ノ二六
神田支部	小野	界	小川町三ノ八
本所支部	鶴岡	祐導	白島一ノ一
城東支部	市川	喜一郎	亀戸町三ノ二四九
杉並支部	松崎	貞造	高円寺
下谷支部	大根田	辰雄	坂本町二ノ二
目黒支部	吉田	大郎	西品川三ノ八二九
杉並支部	高層	省一	馬橋三ノ三五

地方支部 (七〇〇〇〇)

王子交洋 又山三郎 上十條四六五
 葛飾交洋 磯部鐵藏 本田浜江町三四〇
 荒川交洋 大月勲一 三河島町四ノ三〇四
 向島交洋 篠川陽久 吾橋町西九ノ一

札幌市西四條三 万年堂ビル
 勇松郡追分
 雨龍郡幌加内村
 日高國静内町
 帯広市東一條西四丁目
 北見國網走町
 野付牛町
 空地郡江部乙村
 下茅別市市街地
 北見國紋別町

北海道札幌支部

追分 井森仙三助
 幌加内 班目 満
 静内 佐野翠波
 帯広 上杉謙嗣
 網走 伊藤清
 野付牛 田中傳三郎
 江部乙 吉田賢治
 空地 木原太八
 紋別支庁 村田丈作

北海道函館支準	濱辺源助	函館市中島町一五九
福島縣内郷	斎藤庫吉	石城郡内郷村宮竹内
群馬縣高田支部	渡辺半十郎	北甘樂郡高田村
毛里田	島崎晋高	山田郡毛里田村
下仁田支準	佐藤公治	北甘樂郡下仁田村
盤戸	加藤左三郎	盤戸村
栃木縣小山支部	町田浪三郎	下都賀郡小山町御殿
千葉縣船橋	松又辨藏	船橋市九日市町中宿
東京支準	大野鐵心	山武郡東金町
片貝	土田昇	片貝町
設海	伊藤謙一	設海村
白里	石井正明	白里村
横芝	大木新吉	横芝村
公平	石橋	公平村
豊成	鈴木	豊成村

大和	外山政雄	大和村
正氣	小安早	正氣村
豊海	渡辺好忠	豊海村
横中中央支節	鶴島三郎	中区初音町二ノ三〇
神奈川	三枝松藏	幸ヶ谷二〇
神奈川川崎	小泉要太郎	東田町三六六
川崎北	原祐一	中原新地一六二五
新潟縣新潟	古川文平	南蒲原郡新潟村
中之島	丸山晋吉	中之島村
三條	渡辺喜一	三條市北四日町
大面	内藤藤太	南蒲原郡大面村
地藏堂	玉井幸八郎	西蒲原郡地藏堂町
岐阜縣岐阜	福井利一	岐阜市千手町
川辺	井上喜一	加茂郡川辺町中川辺
三和		三和村鹿塩

名古屋東	支部	石井長光	名古屋市東区下幸町
中	土田三郎	中区老松町三ノ一二	
南	秋本茂十郎	南区白鳥橋詰	
瀬戸市瀬戸	戸松專九郎	瀬戸市殿川町二八四七	
豊橋	露久保賢治	豊橋市東小田原町三二	
一宮	梶田勝利	一宮市花畑町	
岡崎	原治雄	岡崎市美合町吉田一二五	
守治山	田中文字重輝	守治山田市錦町二一七	
津	田中正夫	津市乙部海岸本通	
京都上	大倉伊太郎	上京区下立売猪熊西入	
中	金城龍	中京区三條通堀川東入	
右京	金成	右京区田院井御料町二	
左京	辺見為雄	左京区一乗寺松里ノ前町	
下京	菱野貞次	下京区新高倉塩小路角	
西成	武吉	西成区船通川四七	

東淀川	松浦清一	東淀川区本庄川崎町二九
港	久山英行	港区八幡屋大通三ノ七五
旭	石崎重雄	旭区野江町一丁目
兵庫	戸支胡	神戸市兵庫区永沢町三
西之宮	花岡留吉	西之宮市今津町巽一六六九
福岡塚田川	菊地勇	田川郡赤田町野田
桑上	山崎公雄	築上郡八屋町守島
曹根	勝野	企救郡曹根町
藤本縣藤本	永谷重治	藤本市小沢町五六
埼玉縣羽生	大藤輝一	北埼玉郡羽生町
東京府支部聯合會	栗山力	麹町区永田町一ノ三一
神奈川縣		横浜市中区白砂町二七
岐阜縣	玉井幸八	岐阜市千手町
愛知縣		名古屋市中区西日置町八

京都府支部聯合會 大倉伊太郎 中京区三條通堀川
 大阪府 北區曾根崎新地三ノ四九
 中郡地方協議會 名古屋市中区日置町八
 關西 協議會 大阪市北区曾根崎新地

解散

新党運動ノ進展ニ伴フテ党内ニ派ニ対立シ、赤松、小池兩名ノ除名論迄始
 頭スルニ至リタ日本革新党ハ、辻衛公ノ新体制樹立ハノ出馬ヲ確實トナツ
 タノデ、昭和十五年七月一日總務委員會ヲ開キ、左記聲明書ヲ發表シテ解
 党シタ

△解党聲明

重戦三年、漸ク東亞新秩序建設ノ緒ニ就キタルモ前途極メテ多難、苟モ
 倫安ヲ許サズ、此ノ末曾有ノ秋ニ当リ、皇國ノ飛躍的発展ト、世界新秩
 序ノ建設ヲ期セントセバ、獨リ一億國民ノ一体化ヲ図リ、以テ鉄石ノ如
 キ國民總力ヲ發揮セサルベカラズ、新國內体制確立ノ急務今日ヨリ甚キ
 ハナシ、故ク同志茲ニ卒先シテ全カラ備創シ、其ノ実現ニ邁進セントス

ルハ是レ我カ立党ノ精神ニ副フ所以ナリ

△日本革新青年隊

中野区東郷町ニ〇

創立

昭和十三年八月

性格

日本革新党ノ青年別働隊ナリ

綱領

大皇第一、肇國ノ本義ヲ以テ一切ノ思想行動ノ最高軌範トシ、苟クモ之ヲ
 弛緩スルカ如キ行動ハ、寸尺ノ讓歩妥協ト爲モ許サズ

役員

- | | | |
|-----|--------|--------|
| 司令 | 西本 喬 | 水口 徳義 |
| 副司令 | 市川 喜一郎 | 井口 権夫 |
| 参謀 | 小山 幸雄 | 川崎 祐次郎 |
| | 大根田 辰夫 | 山本 潔 |
| | 徳永 淳 | 梅本 幸三郎 |
| | 山田 俊明 | 土屋 次郎 |
| | 岩井 薫 | |

会 員

一昭和十四年七月八日参謀會議ヲ開催、日英會談讓歩絶対不可ノ要請書

ヲ決定、首相以下閣僚当局ニ提出ス

一、同年四月十三日、英國大使館ヲ訪問、近日態度ヲ改メズ、機密の敵性政策ヲ棄テザレバ破邪頭正ノ劍ヲ執ルニ至ルベキ旨本國ニ傳達方ヲ要請ス

一、同日、日独伊軍事同盟即時締結、英蘇擊攘ノ声明ヲ發ス

一、同年八月三十日、参謀會議ヲ開催、独ソ不可侵條約締結ニ対スル隊ノ態度ヲ左ノ如ク決定ス

独逸ノ不信行爲ヲ責メルコトハ出系ナシ、責任ハ平沼内閣ト之ヲ使策シタ親英現狀維持勢力ニアル、故ニ我等ノ根本態度ハ變ラズ、計英方針ヲ堅持シ、親英、討ソ政策ニ絶対ニ反対スル

一、同年十二月十七日及十九日ノ二回ニ亘ツテ参謀會議ヲ開キ、日本革新党ヨリ脱党スルニ決ス、脱党スルニ至ツタ理由ハ、青年隊ハ元總務委員長長江藤源九郎、佐々井一鬼等ヲ支持シテ来タカ

1. 赤松、小池等が中島知久平ノ關係スル「興亞國策研究會」ニ入会シテ、脱政脱党ニ接近スル態度ヲ示スニ至ツタコト

2. 昭和十三年一月、江藤源九郎ノ平沼内閣内務大臣兼官就任ニ原因シテ、江藤對赤松、小池ノ固ニ意見ノ対立ヲ来シタコト

3. 江藤が大日本青年党ニ接近スル氣配ヲ示スニ至ツタコト

4. 同年 月、赤松、小池等が「時局同志會」ニ入会シタコト

ニ起因スル

一、同年同日二十六日、事務所ヲ豊島区池袋町三ノ一五四小山幸雄方ニ移轉ス

一、同年同日二十七日、左ノ離党声明書ヲ發シテ正式ニ日本革新党ヨリ離党ス

△日本革新党離党声明書(要旨)

本隊結成以來一年有余ノ實踐的活動ヲ通ジ、我等ハ其所屬スル革新党本部トハ不幸ニシテ思念並ニ方針ヲ異ニスル所多ク、生起スル各般ノ問題及ビ活動ニ於テモ動モスレバ兩者互ニ背致セントスル傾向生ジタリ

然シ乍ラ内外ノ情勢ハ愈々切迫シ、現状維持的旧勢力ノ蠢動誘惑亦之

ニ対応シテ熾烈ヲ極メツ、アリ
我等ハ一切ノ妥協苟合ヲ排シテ過去ノ残骸ヲ一掃シ、一死以テ天業翼賛
スベキ秋ニ際会ス

茲ニ於テ我等ハ在葦曰ヲ眩クシテ党内ニ停滯スルハ維新達成ノ道ニ非ザ
ルヲ確信シ、日本革新党ト改別ヲ決意スルニ至レリ

一 同年九月五(采川東川小学校)、七(第一龜戸小学校)、八(本所双葉小学
校)ノ三日間ニ亘リ一阿部内閣ニ対スル國民要望演説会一ヲ開催、東洋
ニ於ケル英國勢力ノ駆逐、自主的外交確立、國內革新断行ヲ主張ス

一 昭和十五年一月二十五日、浅田丸事件ニ関シテ参謀會議ヲ開催、左記要
請書並ニ決議ヲナシ、外相、海相、英國大使館ニ提出、更ニ郵船本社ニ
渡部船長ノ解雇処分ヲ要求ス

△ 外務大臣ニ対スル要請書 英國政府ノ謝罪、今後不法行為ヲ繰返ササ
ル確約ハ勿論更ニ進ンテ東京会談ノ中止、駐英大使引上ケ、支那ニ於
ケル英國租界ノ占領、印度独立援助等ニ依リ東亞ニ於ケル英國勢力ノ
掃一ヲ要請ス

△ 海軍大臣ニ対スル要請書 帝國海軍ノ即時對敵準備ト抑留犯人ノ実力
奪還ヲ要請ス

△ 英國大使ニ対スル決議 抑留犯人ノ引渡、帝國政府ニ対スル謝罪、今
後不法行為ヲ繰返ササル確約ヲ要求ス、右要求ニ応ゼザル場合ハ不測
ノ禍ヲ生ズルコトヲ附言ス

昭和十五年九月八日、國民運動研究会一ニ合流解散ス
△ 日本革新農村協議會

創立 性 綱 役 會
格 領 員 員 員
勤 員

責任者 北勝太郎
永山忠則

一 昭和十四年七月十二日、仙台ニ於テ開カレタ、農村産業組合協議會、東

北北海道地区大会ニ於テ、日本革新農村協議会顧問代議士北勝太郎ハ前農相有馬頼寧伯爵並ニ全國産業組合理事長千石興太郎ヲ攻撃スル演説ヲ行ツタガ、有馬、千石両名ハ革農協創立當時ノ支持者アツタニモ拘ラズ最近冷淡ナル態度ヲ示スニ至ツタノヲ憤慨シテキタ革農協幹部ハ、同演説要旨ヲ印刷シテ全國産業組合並ニ革農協関係団体宛發送シタ

一、同年八月六日、全國理事会ヲ開催、本部機構整備、府縣會議員選挙対策外三件ヲ協議シ、左記宣言、次議ヲ行フ

△宣言(要旨)

祖國曰本ハ今一大躍進ノ轉機ニ立ツト共ニ、一大國難ノ危機ニ臨メリ、支那事変ハ世界維新戰ノ序幕敷ニシテ、外交戰、思想戰、經濟戰ノ様相ヲ示サントス、國內革新ハ此ノ線ニ於テ、全面的ニ而モ積極的ニ解決ヲ図ラサルベカラズ、現下曰本ノ急務ハ此ノ國論ノ發展の視一ト、発教ニ躍進スル社会の推進力ノ凝集ニアリ、我カ革農協ハ過去ノ國民運動ノ経路ヲ再検討シ、茲ニ着算スベキハ清算シ、補充スベキヲ補充シテ、新ナル國民運動組織運動ノ決定的展開ヲ誓フ

△決議

一、櫻秀断行

1. 曰独伊軍事同盟即時締結
2. 國家總動員法ノ即時全面発動

△農村対策決議

1. 農産資材ノ供給確保並ニ適正ナル配給
2. 農産物價ノ適正化
3. 旱害地方救済対策徹底化
4. 農村保健対策ノ補充

一、同年同月二十五日、府縣會議員対策地区代表者會議ヲ開キ、左記決議ヲ行フ

△決議

1. 曰独伊軍事同盟ヲ締結シ、三國携ヘテ討英ノ拳ニ出ツベシ
2. 澎湃タル國民的熱情ヲ無視シ、國際情勢ノ判断ヲ誤リ、國家ヲ未曾有ノ窮地ニ陥レタル現政府ノ責任ヲ明カニスベシ

皇國內外ノ旧体制ヲ革新シ、長期戦時國防産業体制ノ即時整備ヲ断行スベシ

一 同年八月六日、全國理事會ヲ開催、地方組織ヲ確立、府縣議選考ヲ契機トシテ積極活動ニ入ル(社會大衆党ト東方會ノ合同破綻ニヨリ華農協ハ破綻ニ瀕シタルモ、合同ニ反対セシ北勝太郎、永山忠則ヲ中心トシテ再建運動ヲ展開ス)

一 同年同月、各府縣會議員候補者ヲ決定シ、其ノ應援ト左記スロカンヲ各支部ニ指令ス

- △府縣會議員選考スロカン
- ① 時局重大、府縣會ヲ建直セ
- ② 東亞新秩序ハ日本内地カラ
- ③ 戦時意識ヲ經濟機構ニ生カセ

△日本學術研究所 麻布区築町八

解散 昭和十五年解散

創立 格

伊藤忠史ヲ中心トスル研究団体ニシテ一般業界及ニ學生層ヨリ研究員ヲ收容ス

役員 領

所長	伊藤忠史
指導員	田所廣泰
指導員	加納祐五
指導員	小田村寅二郎
指導員	夜久正雄
指導員	秋山光枝
指導員	南波忍一

若 狀 散

解散 秋山光枝同ニ対立ヲ生ジ、昭和十五年十一月十一日解散ス

△日本建設協會

創立 格

昭和十五年一月六日
一 日本國體研究所ヨリ分離セルモノナリ
一 即チ日本國體研究所ハ、昭和十三年十一月、企画院囑託餅田工、左翼轉

向者、尾崎望、川崎堅雄、岡本清一等ニヨリテ創立セラレ、所謂「東亞協同體論」ヲ展開シテ、中央地方ヲ通ジ、左翼轉向者ヲ中心ニ勢力ノ扶植ニ努メ、機關紙「國民建設」並ニ「國民建設新聞」ノ號者ハ、三十五年ニ達シテ平タク、全國民的指導勢力結成問題「ヲ護ツテ、紺田及ヒ尾崎、川崎、岡本等、向ニ意見ノ対立ヲ生ジ、遂ニ分離スルニ至リタ
一、即チ、尾崎、川崎、岡本等ハ兼テカラ紺田ノ狹善的態度ニ対シテ不満ヲ有シテ平タク、全國民的指導勢力ノ結成ニ関シテ、紺田ハ「國民大眾ノ自覚ノ足ラカル現下ノ情勢ニ於テハ、指導勢力ノ結成ハ時期尚早ナリト主張シタニ対シ、尾崎等ハ「当面セル現下ノ難局ヲ克服スル爲ニハ急速ニ全國民的指導勢力ヲ結成シ、組織ト活動トヲ通ジテ國民大眾ニ新ナル指標ヲ與ヘルコトガ必要アル」ト主張シ、向者ノ意見ハ全ク対立シテ尾崎等ハ分離退去ルニ至リタ

綱領 目的

日本民族ノ世界史的使命ヲ明カニシ、新日本ノ建設ニ精進セントス

△産業政策

1. 軍需品生産ノ國家管理徹底
 2. 交通運輸機關ノ國家管理徹底
 3. 鉄鉱、石灰、電力、カス、セメント、木材等ノ基礎的原材料並ニ動力生産ノ國家管理徹底
 4. 肥料、飼料、農具等ノ農業用生産資材生産國家管理徹底
 5. 米麥等ノ主要食糧、勤勞用衣服、木材等ノ生活必需物資生産ノ國家管理徹底
 6. 奢侈品、嗜好物ノ徹底的生産制限
- △勞働政策
1. 勞務動員ノ國家的、組織的遂行
 2. 勤勞保全
 3. 生産能率ノ増大
 4. 一般教育活動
 5. 協同體的生活訓練

6. 産報運動

△農村政策

1. 節産生産計画ノ樹立ト実行
2. 肥料、飼料、農機具、電力、石油、農業用藥品、農業用衣服類等ノ低廉ニシテ十分ナル配給
3. 耕作農民ノ高利負債利子ノ支拂停止ト高利負債ノ徹底の整理
4. 小作料ノ法的引下ゲ
5. 小作料ノ全納
6. 水利耕作地管理ニ対スル寄生地主ノ制約排除
7. 土地ノ自由賣買禁止
8. 國營農業災害保険
9. 機械ノ導入、協同経営ノ推進
10. 郡縣全体組織ノ確立ト夫レノ団体加盟ニ依ル産報委員会ノ組織並ニ活動ノ統一

役員

指導者

尾崎 正	川崎 隆	坂口 次	赤津 三	田中 彌作
細谷 松太	小島 玄之	田中 操吉	山本 鶴三	倉本 虎一

会 員
治 動 員
状 況 員
解 散

機関紙「日本建設」発行
昭和十六年二月、左翼陣圧ノ影響ヲ蒙リテ解散ス

ノ 之 部

農村協同体建設同盟

麹町区有楽町一ノ一一

産業組合中央会内
丸之内二五五一

創立 昭和十五年十月
資格 一「産業組合青年聯盟」ヲ改稱シタル産組ノ外廓団体ヲアル

細 領 一地方ニ地方本部並ニ支部ヲ置キ、會員ヨリ年額一円ノ会費ヲ徴收ス
 高度國防國家建設ノ一環タル農村協同体ノ建設ヲ目的トス

△建設目標

1. 農村ニ於ケル國民組織ノ確立
2. 農業生産力ノ維持増進
3. 農村生活ノ刷新厚生
4. 新農業田体ノ建設

役員
 總 裁 有馬 頤 寧
 理事長 横尾 三 郎
 理事 村田 義 次

高橋 英 夫
 吉田 孫 四 郎
 小泉 卓
 馬場 勝 男
 柴田 知 夫
 佐藤 鉄之助
 岩 部 忠 夫
 山 本 直 義
 高 島 米 吉
 林 誠 悦
 望 月 佐 一
 浦 野 浩

會員 二万名

出版 機関紙「協同先駆」(月刊) 発行
 事業目標左ノ通り

1. 共同作業場及ビ共同收事場ノ設置
2. 講習会、研究会ノ開催
3. 出版

農村文化研究会

京橋区榎町二ノ五 不二ビル

創立 昭和十五年八月

註 格 昭和十五年七月九日解散シタ「東京経済論同志会」ノ後身デアル

役員
 仁尾 勝 男
 大井 上 康

會員

活動 一機園紙「東亜経論」ヲ発行ス

農地制度改革同盟

芝区琴平町二 虎ノ門会館
芝七〇六

創立 性格

旧大日本農民組合（社大系）、日本農民組合、小倉派農村議員ヲ以テ結成
セラレタル団体ナリ

綱領 役員

永山 忠則 曾木 重貴 杉山 元治郎
平野 力三 三輪 壽壯 片山 哲
油谷 義治 杉浦 武雄 三宅 正一

会 員

八 文 部

梅 櫻 會 荒川區日暮里町七ノ三三一

創立 昭和十一年九月十八日

綱 領

役員 主事 本多 武良男

幹事 長門 鉄夫

同 水田 正憲

同 田村 好次

相談役 床 道次

同 西 見 由太郎

書 員 三十九名

活動 休止

八光會 延區高輪南町二八
高輪五六二六

創立
性格

陸海軍退役將官ヲ中心トスル純正日本主義團體ナリ

一、維新ノ大道ニ基キ、万民「マツロヒ」ノ生活道ヲ闡明シ、実践以テ皇

國日本ノ眞姿ヲ顯揚ス

二、肇國ノ大義ヲ世界ニ宣布シ、万邦大和ノ実ヲ致シ、ハ統字爲ノ天業完

遂ノ皇讓ヲ翼賛ス

三、教育勅諭ノ聖旨ヲ奉戴シ、皇國臣民道ノ根基トシテ実践躬行ス

四、東西文化ヲ皇道ニ帰一セシメ、世界文化ノ中心タル実相ヲ顕現ス

五、各職分ヲ通ジテ天業ヲ奉賛、御後成ノ下、歡喜ト希望ニ充ツル皇民生

活ノ充實伸展ヲ期ス

役員

會長 山本英輔
副會長 荒太貞夫

有馬良輔 一孫 奥孝

會員

常任理事 森 臣三
顧問 石 毛 英三郎
同 猪 野 毛利条

小 磯 國 昭 鈴 木 孝 雄 高 橋 三 吉
竹 下 勇 頭 山 滿 林 銑 十 郎
真 崎 甚 三 郎 平 沼 巖 一 郎 安 井 英 二
菱 川 隆 柳 川 平 助

活動
状況

機関誌「八光」(月刊) 発行
講演會、研究會、調査並ニ圖書出版

反響社 定橋區百人町三ノ三三二

創立
性格

昭和十二年十二月一日

編輯

役員

主幹 津田 榮三郎

祿田 直也

堀内 健一

會員

十名位

活動

「傳 縮」(不定期発行)

一、昭和十四年八月三十一日、政友ニ際シ「國論ノ統一、時局認識の徹底
人心ノ一刷」ヲ企圖シ、「革新新行」ト題スル傳單五万枚ヲ配布ス

萬民翼賛体制確立聯盟

創立

昭和十五年六月

性 格

内田正巳ヲ中心トスル「皇室翼賛聯盟」ヲ改称シタモノデアル。

役員

世話人 児玉 信夫

同 若月 晋

同 内田 正巳

會員

活動

一、昭和十五年六月九日、「広義まのり」と翼賛体制建議書ヲ政友會中

島派代議士其他各方面ニ郵送ス

要旨 政党ノ覚醒、官民政治体制ノ提唱アルハ慶賀ニ耐ヘズ、然シ未

ダ国政ノ本義ヲ把握セズ政党ノ形式的合同ヲ策シタルハ遺憾ナリ、

國民組織トハ広義まのりごと翼賛体制ニテ狭義政治組織ニ非ズ、曰

本ニ於テハ政治モ経済モ翼賛デアル、此ノ本来ノ翼賛人ヲ一教導者

ノ下ニ結合スルコトガ國民組織デアル、政党モ官民モ文化團體モ社

郷軍人モ其ノ總翼賛人、翼賛団体トシテ一教導者ヲ盟主トシテ結合

スベシ

一、同年四月十八日、「國民組織」ニ關スル建議書ヲ政府事務局及ヒ

政界上層部ニ郵送ス
新國家体制要旨

- (一) 神國的翼賛ニ立テ革新ト現状維持ノ摩摺ハ不可
- (二) 財産及ヒ産業ハ翼賛ノ手段ナリ、全体主義經濟定制ハ國体ノ性格ニ及ヌ
- (三) 公益ト私益ハ一如ナリ
- (四) 臣民ハ翼賛機關ナリ、軍官民共機關トナリテ一教導者ノ下ニ統率ナル

七 之 部

曰 の 本 社 中野区大和町五七

創立 昭和十年一月一日
主 幹 島山ハ吉田 茂ノ系統ナリ

役員 主 幹 島山 清 美

役員

東 亜 細 亜 社 王子区東十條三ノ七

創立 格

役員

役員 代表者 山口 進 午

役員

役員

フ
之
部

武神會

豊島区西巢鴨町六ノ二五二 長崎方

創立 昭和二年七月三十一日

資格

細領

役員 會長 長崎勝助

會員 十名

状況 況動

創立

文教振興會

淀橋区西大久保町三ノ二〇

性別

細領

役員 代表者 曰 高 瓊々彦

會員

状況 況動

奉公會 神田区神保町一ノ三四

創 立 性 格

細 領

役員 代表者 井上 通泰

會員

狀活 况動

報國愛民社

目黒区目黒一ノ八七 安倍方

創立 昭和十一年三月二十七日

綱領

役員 會長 安倍 忠夫
理事 安倍 一雄

同 費 呂 常 吉

會 員 五百名
狀活 况動

報國新報社

京橋区銀座五ノ六

創立 格

綱領

役員 代表者 田 辺 宗 英

會 員
狀活 况動

木之部

本學會

創立 昭和十一年九月一日

性 格

役員 總裁 山口 鏡之助
理事 原 興 作

會 員

活動 況 「本學」(月刊)発行

マ之部

まことむすび中央事務局

芝区慶応町一ノ二

芝四六四九

創立 昭和十四年三月

性 格

一、五・一五事件関係者タル本間憲一郎、神矢政事件関係者タル天野辰夫、
岩田一利ヲ中心トスル一線勤王運動ハ、昭和十三年茨城ニ発シ、曰
刊新聞「いはらぎ」(社長 中崎 憲)ノ支援ヲ得ル一方、講演會、
座談會ヲ通ジテ運動ノ拡大ニ努メタガ、更ニ其ノ機關誌ヲ発行スル為
ニ「まことむすび社」ヲ東京ニ創設シタ
一、即チ「まことむすび社」ハ一線勤王運動ノ中央事務局デアルト同時ニ
曰刊誌「まことむすび」ノ発行ヲ行フモノデアル

綱 領 誓 言

一、我等ハ陛下ノ股肱ナリ
一、我等ハ統後ノ近衛兵ナリ

目的

後員 國体ヲ明徴ナラシムルニアリ
別ニ設ケザルモ、同人ハ左ノ通り

代表者 本間 憲一郎

主務者 天野 辰夫

同 片岡 駿

雜誌 本間 憲一郎

世話人 鹿子木 買信

安田 鉄之助

小島 茂雄

天野 辰夫

羽生 謙四郎

奥戸 足百

西村 文則

森川 長孝
黒澤 直光
田田 專藏
鈴木 壽雄
藤井 己易

會員 六十名

雜誌

題

後開誌「まことむすび」(月刊)一カ部発行
講演會、座談會、研究會等ヲ開催

各地方ニ地方事務局ヲ有ス

一、昭和十四年五月十一日、行方郡まことむすび會員小沼正雄、坂田寛之

両名ハ、日比谷ニ於ケル軍同尊請全國青年大會ニ出席ス

一、同年四月三十日、行方郡大和村まことむすび會員千浦仁平、山口 東

坂田寛之ノ三名ハ血書シタル軍同要請書ヲ携行上京シ、首、外、陸、

海軍省ヲ訪問提出ス

一、同年六月五日、同月九日ノ二回ニ亘リ、水戸市常磐塾ニ於テ「日独伊

軍事同盟條約」ニ関スル座談會ヲ開催ス

△大日本俱樂部

芝区殿岩町一ノ二

創立

性 絡

昭和十三年十月

本間憲一郎ヲ後援者トシテ神兵隊事件關係者岩田 一、石井忠一、中村登
等カ中心トナリ結成シタルまことむすび系統ノ団体デアル

編輯 國內外ニ亘ル昭和維新ノ進行ヲ以テ目的トス
役員 顧問 本間 憲一郎
主幹 岩田 一
石井 忠 一
中村 登
高野 春 治

解散

大日本俱樂部ハ後援者本間憲一郎が昭和十四年八月五日重臣暗殺陰謀事件ニ連座シ、檢挙セラレテ財政的打撃ヲ受ケ、又同人石井忠一、高野春治等モ不穩文書事件ヲ起訴セラレル等ノ事情ニ依リ經營上支障ヲ來シ、昭和十五年一月十四日解散スルニ至ツタ。解散声明書要旨ハ左ノ通り
△解散声明書(要旨)

本俱樂部解散ノ理由ハ、現前皇國非常ノ局面ニ処シ、全國まことむすび運動強化ノ統一ヲ圖ルタメ、之ヲ解散シテ自ら維新翼賛ノ新体制ニ合スルニアル
回顧スレバ昨年一月全國同業ノ士本俱樂部ヲ結成シ、臣道奉公ノ一途ヲ

採テ來ツタ。當時ノ情勢ハ殆モ聖戰三週年ノ重大時局ヲ迎ヘ、内ニ權臣僭竊、官僚專横、國體ニ則リ國政ノ一新ガ不可避ノ課題トシテ提示升レテ居タニ拘ラズ、彼等ハ包テ私利ヲ貪ル財閥ノ走狗トナリ、諸政一新ノ奉公ヲ遂ゲ得ザルノミカ、却ツテ維新ノ赤旗ヲ阻ンデ大命ヲ顧ミズ、外ニ軍復目的ノ遂行ヲ放棄シテ自カラ外寇ヲ拒クニ至リ、志アル者ヲシテ徒ラニ浩歎ヲ深クセシムルノミ、大言壯語、虚偽無益ノ狹量如何セン、茲ニ於テ乎、眞摯純情臣道ノ誠ヲ自ら窮行セントシテ勤王まことむすびノ一途ヲ維新翼賛ノ奉公ト確信シ一年余ニ亘ツテ研ヒ來ツタノデアアル。今日國內情勢ハ依然トシテ深刻ノ度ヲ加ヘ、前途深憂ニ耐ヘナイモノガアル。此ノ時機ニ際シ勤王まことむすび運動ノ強化ハ臣道實踐ノ責務ニ於テ當然ノ帰趨デアリ、國體防護ノ任務ヲ奉獻スル者ノ至當ノ方途デナカレバナラヌ
勤王まことむすびノ一翼ニ參加スル同志ノマことむすびトシテ、且ツ又全國維新勢力結集ヘノ捨石トシテ創設サレタ大日本俱樂部ガ、ソノ時ニ至リ、茲ニ壹々解散シテ新ナル運動ニ貢獻セントスルハ、之レ一ニ自ら

律シテ臣道ニ忠実ヲ致ス所以テアル
 まつろひ會 日黒区三谷町一〇八

創 立 性 格

細 領

役 員

會 員 活 動 状 況

創 立

滿 鮮 問 題 國 民 同 盟

總 町 区 永 田 町 二ノ八六 黒 龍 會 内

昭和六年七月二十一日

代 表 者 麻 春 人

性 格

細 領

役 員

會 員 活 動 状 況

創 立

黒龍會、大日本生産党ト明殊ヲ有シ、創立當時ニ於テハ滿蒙權益擁護ノ爲
 大ニニ活躍シタリ

一、在滿蒙同胞鮮人ニ対シ即時現地保護ノ実行ヲ期ス
 二、既定條約ヲ履行シ帝國特殊權益タル滿蒙ノ地歩確立ヲ期ス

主 幹 葛 生 龍 久

幹 事 池 田 弘

同 岩 田 俊 之 助

同 朴 春 琴

最近活動休止

ミ之部

みかのみ運動祭政會

渋谷区代々木初台町五四〇

創立

細

役員

會

活況

代表者 梅田 伊智啓

瑞穂俱樂部

麹町区内幸町二ノ二 富國救兵別館

銀座西四〇三八

創立 昭和八年十一月十八日

性

一 純正日本主義種管ノ井田啓楠、菊池武夫、小林順一郎等ヲ中心トスル

國体明徴ヲ主眼トスル同志結成体デアル

一 會員制度ニシテ、眞ニ私心ナキ同志ガ利益ヲ超越シ、身ト物トヲ擇ケテ集マル

一 會費及ビ疎金ニヨリテ維持ス

一 國体擁護聯合會、國際反共聯盟、時局協議會ト關係ヲ有ス

細

一 國体ノ本義ヲ益々明徴ニシ、之ニ基キテ時局ニ処スベキ重要対策ヲ攻究シ、其ノ實現ヲ期ス

二 各人ノ自由ヲ束縛スルコトナク、個人ノ意見ヲ尊重シ、有名諸氏ヲ通シテ政治ニ修養ニ實踐ス

役員

常任理事

井田 啓楠 菊池 武夫 大井 成元

四王 天延 孝 小林 順一郎 渡辺 汀

井上 清純 有馬 成甫 松江 豊樹

主 事

會員 七十八名 伊達 弥 永 松 本 徳 明 等 乃 共 撰

活動 概況 昭和十四年九月二十九日、定例理事會ヲ開催、ノモニハン停戰協定、

- 一 昭和十四年九月二十九日、定例理事會ヲ開催、ノモニハン停戰協定、
- 一 対米問題ニ就テ意見ヲ交換、米ノ西國ノ態度ヲ警戒スベシト論ス
- 一 同年十月三日、大阪階行社ニ於テ、關西支部ニ於テ、全會式ヲ挙行ス
- 一 和歌山市、會館開陸軍少將垣内豊楠以下會員十八名ノ入會ヲ承認ス
- 一 同年十二月二日ヨリ三日間、第三回時局対策研究會ヲ開催、全國各府縣地方代表等百余名出席ノ上、外交問題ニ關スル外務省並ニ陸海軍當局及ヒ俱樂部理事ノ講演ヲ聴取シ、并外政策ヲ中心ニ意見ノ交換ヲ行フ

三宅坂俱樂部 郡町区永田町

創立 昭和十五年 日本革新党ニ解散後、赤松克彦、小池四郎等ノ一激ヲ結成シタル俱樂部

役員 代表者 赤松 克彦 小池 四郎 宮崎 謙心

會員 之部

無名士俱樂部 淀橋区長崎町六〇八

創立 昭和八年十月三十一日 一、全一俱樂部ニシテ改称シタルモノナリ 一、徳天南(杏吳師)ノ団体

役員 代表者 直原 豊四郎

會員

百五十名

城西四谷支部 濱橋区西大久保町一ノ四二一

創立 昭和九年八月五日

役員 支部長 中原土 武 一

城東支部

創立

役員 支部長 杉本 芳 一

班長 兎玉 泉太郎

他 二名

秋名 況助

明德會

世田谷区松原町四ノ一七八 川口方

創立 昭和二年三月十一日

性 格 一 川口政好ヲ中心トスルシテ生差党系ハノ純正日本主義団体ナリ

一 争議団鎮圧ニ力入シ、又政治責任ヲ問糾ス

綱 領 一 吾人ハ皇室ヲ尊ブ

二 吾人ハ我が王道ノ大柱ニ振リテ全世界ノ統御ヲ期ス

三 吾人ハボルセヴイズム並ニフアツシズムヲ排ス

四 吾人ハ社會各階級各個人ノ正義ト自由トヲ主張ス

五 吾人ハ貴族、富豪ノ専恣横暴ヲ許サズ

役員 主 幹 川 口 政 好

幹 部 左 司 野 理 一

同 平 野 善 三

同 寒 川 義 雄

會員 約二十五名

状活
光勳

機関誌「明德論壇」(月刊)発行

一 昭和十四年十月五日、主幹川口政好ハ、同志タル皇道翼賛社西村泰藏
政教社皆川三陸、清水康太郎、神長昌典ト相謀リ、愛國団体有志一同
ノ名ヲ以テ翼賛者問題ニ關スル外務省紛争ニ關シ、外相救励電報ト、
局長長ニ対スル反省要請電報ヲ送ス

明朗會 芝区新橋二丁目 中和ビル

創格
立

日比和一ヲ中心トスル、高級船員(主体郵船)ヲ以テ組織スル國家主義団
体ナリ

役員
細

會長 日比和一
副 井山本英輔
井上 岸 光

會員
状活
光勳

同 真崎勝次
同 大森一吉

機関誌「明朗壇」三十部発行

一 昭和十四年七月八日ヨリニヶ月間、静岡縣駿東郡足柄村円通寺ニ於テ
特設修練道場ヲ開設ス

一 同四年九月二十六日、講師井上清純ノ講述ヲ聽メタル「國史ヲ貫ク日
本精神」ヲ発行ス

一 同年同月、名古屋支部設立準備ノ為、名古屋市港区港本町築地館ニ事
務所ヲ設置ス

一 同年同月二十九日、名古屋市港区西築地小学校ニ於テ「時局講演會」
ヲ開催ス

一 同年十月、機関誌「明朗壇」ニ於テ日本海員組合ノ一日歿死忠靈顕彰
運動ヲ攻撃ス

一 同年十一月一日、名古屋支部ヲ開設シ、記念講演會ヲ開催ス

△明倫會

麹町区丸の内 海上ビル旧館

創立

昭和七年五月十六日

性

陸軍大將田中重光ヲ中心トスル、団体ノ本義ト、統帥大権ノ明徹ヲ主眼トシ、統帥大権ヲ本主義ニシテ、其ノ由中國重慶後會長久員維新ヲ解散セ

綱

一、國體ノ本義ト、帝國憲法ノ精神トニ基キ、多年ノ積弊タル個人主義体

制ヲ一掃シ、特ニ行政機構並ニ議會制度ニ根本的的改革ヲ如ヘテ、天皇親政、臣民翼賛ノ國家体制ヲ確立ス

二、八紘一宇ノ皇謀ニ基キ、益々盟邦トノ提携ヲ鞏固ニシ、斷乎トシテ大東亞共榮圈ノ確立ニ邁進シ、併セテ世界新秩序ノ建設ニ貢獻ス

三、統帥大権ヲ明徹ニ、軍備ノ拡充ヲ圖リ、且ツ國家ノ諸要素ヲ國防目的ニ集中スル高度國防國家体制ヲ確立ス

四、大東亞共榮圈内ニ於ケル自給自足經濟ノ促進ト、公益本位ノ計画的經濟ノ發達トヲ以テ、家合国力ノ充實ト、國民生活ノ安定トヲ圖ル

役員

會長 田中國重

副會長 興平 坂藏

常任理事 渡辺 良三

理事 中山 健

理事 石原 廣一郎

理事 守 芸 晋

理事 芦澤 敬策

理事 伊丹 松雄

理事 堀口 九萬一

理事 二子石 宮太郎

會員

約七千名

江東支部 本町区小梅町二ノ二 石崎方

創立 昭和九年五月十二日

五、大イニ教學ヲ刷新シテ、忠君愛國、献身報國ノ精神ト、道義的觀念トヲ向上シ、且ツ時勢ノ進運ニ応ズル科學及技術ノ振興ヲ期ス

會員 約九十名
 役員 支部長 石崎 伸三郎
 副支部長 望出 二藏
 同長 大澤山 定規
 顧問 井田 友平
 岡 中川 金藏

板橋支部 板橋区志村清水町四〇三

創立 昭和九年七月八日
 會員 約三百名

役員 支部長 荻原 勝一

淺草支部 淺草区今戸町二ノ一四 三谷方

創立 昭和九年七月二十三日
 會員 約百二十名

役員 支部長 三谷 四郎
 幹事 柴木 平八 他九名

状況
 活動

一、昭和十四年四月三十日、丸之内中央亭ニテ全國評議員會レヲ開催

(イ) 皇軍慰問

(ロ) 防共協定強化運動

(ハ) 英佛西國排撃運動

(ニ) 帝國議會ノ改造

(ホ) 大學ノ猿轡打破

(ウ) 國民精神總動員運動ノ協力

二、就テ報告ノ後、左記本年度活動方針ヲ議決セリ

1. 將政權打倒ノ使命ヲ荷レテ東亞新秩序ノ建設ハ望ムベカラズ。故

ニ積極的作戰ヲ繼續シ、將政權ト外部勢力トノ連絡遮斷ニ就テ一

層ノ努力ヲ傾注スルヲ要ス

2. 防共及ビ之ニ反対スル國家群ノ対立益々尖锐化セル現状ニ於テ帝

國ガ曖昧ナル態度ヲ採ルハ前途ヲ危クスルモノナリ、故ニ断然、

曰独伊軍等同盟ヲ締結スルト共ニ接濟ヲ三國ニ対スル妥協的態度

ヲ清算スルヲ要ス

3. 國民精神ノ振興ハ非常打倒ノ要素タルニ拘ラス、大都市及ハ振興
産業方面ニ於テ草莽浪費ノ風アルハ寒心ニ耐ヘズ、政府ハ率先振
興ノ範ヲ示スト同時ニ戰時所得ノ偏頗ヲ調整シ、生活不安ヲ一掃
スル爲徹底セル手段ヲ講スベシ

4. 綜合國力ノ充實ヲ圖ルタメ總動員体制ヲ強ルシ、特ニ生産力ノ増
強、輸出ノ振興、消費ノ節約並ニ物価騰貴ノ抑制ニ努ムルコトハ
要ナリト虽モ、之ニ藉口シテ政治、經濟等名假ニ亘ル改革ヲ回遑
遷延スルハ適當ナラズ、改革ノタメ生ズル摩擦ハ顧慮スルコトナ
ク、断乎タル態度ヲ以テ革新ニ邁進スルヲ要ス

一、同年七月六日、天津租界問題東京會談ニ関シ、対英強硬策ノ遂行ヲ首
相以下各閣僚、重臣、統帥府、實業西院議長並ニ英國大使ニ要請ス
一、同年十月六日、外務省紛争向題（貿易施設設置ニ関スル）ニ関シ「官吏
ノ團結的反抗ハ官規紊亂ナレバ断乎処分スベシ」トノ進言書ヲ首相以
下各重臣ニ奉送ス
一、同年十月三日、本部ニ於テ定例理事會ヲ開催シ歐米戰爭ニ関スル意見

交換ヲ行フ

一、同年同月十日、定例理事會ヲ開催、貿易信向題及ビ日ソ停戦決定ニ関
シ意見ヲ交換スル

一、同年同月二十四日、定例理事會ヲ開催貿易信向題ニ関シ意見ヲ交換ス
一、同年十一月六日、定例理事會ヲ開催シ外務省職務ニ見在部ヨリ「上海
ニ於ケル治安現況」ヲ聴取ス

一、同年同月十四日、定例理事會ヲ開催、理事島田國彦少將ヨリ北支皇軍
慰問状況ヲ聴取ス

一、同年同月二十一日、定例理事會ヲ開催、物価統制及ビ対外國策ニ付意
見ヲ交換ス

一、同年十二月十二日、田中總裁ノ名ヲ以テ政府吉届ニ対シ「經濟統制ノ
摩擦ト不消ヲ除去スル據」進言書ヲ提出ス

一、昭和十五年一月二十四日、淺間丸事件ニ関シ本部ニ緊急理事會ヲ開催
当局ニ進言書ヲ提出スルニ決シ、首相、海相ニ左記ノ進言書ヲ提出セ

リ

群 散 昭和十六年六月後任會長推ノタメ解散ス

進言書 及向丸事件ハ國際法ニ抵触セル不法行為ナルノミナラズ、
我が帝國ノ威信ヲ傷ツケルコト大ナリ、依ツテ政府ハ拉致犯人ノ引
渡シト將來ノ保障ヲ要求スルハ勿論 正式ノ謝罪ト英艦長ノ処分ヲ
要求シ之カ貫徹ヲ見ザル場合ハ行動ノ自由ヲ保留スル所ナカルベカ
ラズ、本件ハ帝國ノ重大事ナレバ政府ハ國民一致ノ核撥ヲ確信シテ
最モ強硬ナル態度ニ出デザランコトヲ要望ス

ヤ
之
部

靖 國 會 芝区芝公園大号収録會内

創 立 昭和九年三月一日

細 領

役 員 理事 今泉 足助

同 吉田 茂

評 議 員 頭 山 崎

同 有 馬 良 福

同 井 上 清 純

會 員 二十三名

活 動 状 況

靖國頭修會

創立 昭和十四年八月
 性 格 惟神頭修會ヲ改称セルモノデアル。即子惟神頭修會ハ昭和十四年三月主宰者富田鎮彦死亡後自然解消ノ状態デアツタガ、中心人物雅煥、大久保、森曾根、松本五名ニ於テ改議ノ結果、靖國頭修會ト改称シテ存続スルコトニ決定シタ

綱 領

授 員 雅 賀 博 俊

大 久 保 弘 一

森 清 入

曾 根 朝 起

松 本 徳 明

會 員

況 勢

一、昭和十四年八月二十三日ヨリ二十七日迄、第一回睦夫頭修會ヲ神宮奉拜會ニ開催ス

大和俱樂部

豊島区目白町四一

大塚四・一〇五

創 立 性 格

綱 領

授 員

瀨 川 義 親 大 川 国 明 竹 下 勇
 松 井 石 根 建 川 美 次 重 藤 千 秋
 白 鳥 敏 夫 十 河 信 二 石 原 廣 一 郎
 安 井 英 二 天 野 辰 夫 本 間 憲 一 郎

太田 亥十二 根本 映 笠木 良明
村井 修

會 員
活 動 状 況

最近解散状態ナリ

大和民勞會

芝区白金三光町四七八 長谷川方

創 立 大正十三年二月二十八日

性 格 一、濠洲天放ガ河合徳三郎ノ後援ニヨリテ創立セルモノ
一、藤代ノ個人団体ナリ

一、望室中心ノ大義ニ則リ、上下一致忠誠ヲ致シ、以テ建國ノ美風ヲ発揚セシコトヲ期ス

二、正義公平ヲ旨トシ、人類共存天栄ノ立場ヲ以テ横暴不正ノ強欲ヲ期ス
三、社會ノ平和ヲ念トシ、人民ノ幸福ヲ尊重シ、反社會的行動ニヨリ安寧

會 員

代表者 藤代 正 卷(天放)

會 員
活 動 状 況

有名無実

大和報國運動本部

赤坂区水川町三三

赤坂三、一八〇

創 立

水 平 運 動 ヲ 目 的 ト ス

性 格

一、華國ノ精神ニ基キ、大東亞新秩序ヲ建設シ、世界新秩序建設ノ先驅ヲシム

二、國体ノ本義ヲ顯揚シ、一體一心大和報國ノ実践ニ挺身シ、以テ國防國家本則ノ完成ニ貢獻セントス

役 員

代表者 陸軍中將 島 本 正 一

山 本 正 男 深 川 武

伊 藤 末 堆 松 本 治 一 郎

中 林 至 道 田 原 春 次

會 員
活 動 状 況

推進員制度ニテ拡大中

五之部

憂國青年聯盟

芝区南佐久間町一ノ五〇 早坂方

創立 昭和十五年八月十三日
宗旨 誠道會ニ主幹早坂謙吾カ、新政治体制ニ協力スベク同志青年ヲ糾合シテ
結成シタル団体ナリ

綱領

- 一、國體ノ本義ニ基ク思想ノ統一
- 一、個人主義、自由主義諸勢力ノ排撃
- 一、國民生活ノ安定確保

一、日滿支提携ヲ枢軸トスル大東亞生命團ノ確立

今ヤ皇國日本ノ対外的危機ハ日々加重シアルニ、現状維持努力者ノ妄動ハ我等青年ノ黙視スルニ忍ビザル所ナリ、即チ吾人ハ茲ニ蹶起シ、彼等ノ迷蒙ヲ斬平排撃シ、直ニ屈力ナル新政治体制ノ確立ニ協力セシメ、新日本建設、世界新秩序ノ顯現ニ寄與シ、軍官民渾然一體トナリテ皇道世界宣布ノ果ヲ擧ゲント欲スルモノナリ

役員
代表者
早坂謙吾 (誠道會)
緒田辰夫 (皇道塾)
秋山林 (防諜聯盟)
佐瀬英雄 (維新同盟)
堀田篤 (反共社)
藤村芳郎 (力の日本社)
前田芳藏 (昭和義塾)

一、昭和十五年八月十三日、麹町清水谷公園皆吾園ニ於テ宣言、編成ヲ決定ス

湧出誌 中野区本町通六ノ一〇

創立
格立
綱領
役員
代表者
福井幸

ヨ之部

洋々會 麻布区霞町二二

創立

海軍退役將校ヲ中心ニ結成サレタル會ニシテ、海軍思想普及ヲ主目的トス

綱格

役員會長 百武 三郎

會員

活動状況

翼賛社 中野区花園町二一

創立 昭和十四年三月一日

綱格

役員 主幹 長澤 九一郎

會員 ナシ

活動状況 「翼賛」(月刊) 二十部発行

翼賛体制促進同盟 淺草区小島町

創立 昭和十五年九月十八日

性格 元日本革新青年隊參謀川崎祐次ヲ中心トシテ結成セラレタルモノナル。

綱格 聲明

今次近衛首相ニ依ッテ擬唱セラレタル政治新体制ノ抱負極論ハ全國ハモトヨリ吾等多年日本主義革新運動ニ從事セル同志ノ特望シタルモノデア
ル。茲ニ於テ吾人同志ハ過去ニ於ケル最多ノ聖戰ヲ結成セシムベク凡ソ
ル利害ト立場ヲ超越シテ大同団結ヲナシ、眞ノ翼賛新体制確立ノタメ、

目下活躍シツ、アル革新の中央指導者ト十分ナル連絡提携ノタメニ、
 此等之ヲ目的貫徹ヲ期スヘク、如何ナル困難ヲモ克服スル決意ヲ新ニシ
 前途ノ道ヲ突破シテ國家革新ノ大業ヲ遂行セントスルモノデアル。敢テ
 革新同志ノ大同団結ヲ促シ、至推ノ大業ニ一粒ノ寄英ヲ爲サントスルモ
 ノデアアル。

役員

- 委員長 佐藤 守義 (元日本革新党浅草支部)
- 同代理 川崎 祐史 (元日本革新青年隊参謀)
- 同 塚田 博邦 (元日本青年党浅草支部)
- 席正委員 渡辺 内蔵 (元日本革新党浅草支部)
- 同 高山 欣也 (同)
- 連絡部長 松原 義一 (皇 國 会)
- 調査部長 佐藤 完准 (元政友会海防同盟浅草支部)
- 同 古家 権太郎
- 同 川崎 祐史

創性 授會 壯五
 立格 買買 況動

青年部長
 青年部長

- 塚田 博邦 (元日本青年党浅草支部)
- 下寺 弘 (同)
- 阿部 明 (同)
- 昆竹 源吾 (元日本革新党浅草支部)
- 新井 迎春 (元政友会海防同盟浅草支部)
- 青山 源大 (皇 國 会)
- 藤田 利味 (元日本青年党浅草支部)

他、三十三名

四谷革新會 四谷区三光町二四

代表者 道 塚 春 一 郎

リ之部

立憲勤王党

世田谷区太子堂町三一三

創立 昭和六年六月十八日

性格 創立当時「勤王會」ト關係ヲ有セリ

綱領 一、我が立憲政体ノ基礎トセル三權分立ヲ敬尊ス

一、立法 立法機關ハソノ精神ニ基キ貴衆兩院ニ於テ之ヲ行ヒ原則トシテ

行政機關タルコトナシ

一、行政 内閣主班者ヲ定ムルニ就テ天皇ノ御諮詢機關ハ内大臣、樞密院

議長及貴衆兩院議長トス

一、司法 司法大臣ノ定ムル制ハ司法部ニ於テ司法參議官ノ選考ニヨリ内

閣主班者之ヲ天皇ニ奏請スルモノトス

一、國政ヲ刷新ヲ計ルタメニ行政府並ニ司法府ハ在職期間四年令ト定ム、

但シ左職中失政アリタルトキハ除ク

役員 代表者 片山 廉平
會員 三名

状況 創立當時國争政体排撃ノ活動ヲ行ヒタルニ最並ハ無活動ナリ

立憲國民運動協會

江戸川区平井町三一八一五

創立 昭和十年三月九日

性格 元中央労働同盟會長坪井專治郎ノ個人団体ナリ

綱領

役員 會長 坪井 專治郎

會員 ナシ

活動 無活動

立憲養正會

麹町区飯田町河岸一七

創立 大正十二年十一月三日

性格

綱領

一、吾人等ハ立憲ノ國命ヲ体シ、神武天皇「養正建國」ノ大謨ニ基キ、大公至誠ノ王道ヲ翼賛シ、仁覆慈戴ノ皇風ヲ光揚シ、以テ世界人類ノ究竟平和ヲ現出セシムベキコトヲ標準トシテ國体主義ノ政治ヲ興立セシムコトヲ期ス

二、我等ハ立憲ノ國命ヲ体シ、神武天皇「積慶統民」ノ洪猷ニ基キ、克忠克孝ノ德政ヲ宣敷シ、國風民俗ヲ醇化シ、以テ世界平和ノ基礎ヲラシムベキコトヲ標準トシテ國体主義ノ政治ヲ興立セシムコトヲ期ス

三、我等ハ立憲ノ國命ヲ体シ、神武天皇「重輝存世」ノ宏化ニ基キ、正智正見ノ文化ヲ扶植シ、以テ世界文明ノ輝化ヲ扶ケ、人類ノ幸福ヲ増進スベキコトヲ標準トシテ國体主義ノ政治ヲ興立セシムコトヲ期ス

役員

總裁 田中 澤二
 總務部長 田村 益 祐
 基金部長 中島 博
 幹事局長 中川 依太郎
 事務局局長

幹事局長 前田 舜 岳
 臨時総務部長 田中 耕 田
 宜松局長 加藤 嘉 孝
 選挙部長 小野寺 榮 治
 選挙部長 原 利 重
 情報局長 本郷 松 春
 幹事 本郷 松 春
 全統統制委員 角田 勝三郎
 委員 長 角田 勝三郎
 同委員 島崎 捨 吉
 他四名

會 員

後附誌「養正時評」(一月二回)発行
 全國ニ支部ヲ有ス

一、昭和十四年九月、府縣會議員選挙ニ二十八名立候補、三名当选ス
 一、同年十月二十日、日比谷公會堂ニ於テ「重大時局批判大演說會」ヲ開

推ス

一、同年十一月三日、「昭和十四年度聯合支部代表者會議」ヲ開催左記議案ヲ決定ス

1. 昭和十六年選挙必勝ニ関スル件

2. 組織運動方針ニ関スル件

3. 講習會ニ関スル件

4. 宣傳ニ関スル件

5. 農正時評編輯ニ関スル件

6. 十一月、十二月中ノ活動ニ関スル件

立憲愛國社 麹町区平河町一ノ五

創立 大正九年五月一日

性格 創立當時「大行社」ヲ生義團ト稱シ爾後ヲ有セリ

綱領 一、本社ハ聖日蓮ノ指導原理ヲ信奉シ、其ノ立正安國精神ノ普及徹底ヲ図リ以テ救國ノ大業ニ任ズ

二、本社ハ純真ナル信念ニ燃ユル愛國者ノ人格的結合ヲ圖リ、以テ新日本建設ノ爲ニ努力ス

三、本社ハ時局ニ対シテ左右ニ偏セズ嚴正至純ノ宗教的信念ニ基ク救國運動ヲ以テ主眼トス

壽

役員 主幹 與

役員 主幹 與

△立憲革新青年黨 日本橋区浜町三ノ八九

創立 昭和二年十一月二十日

性格

綱領

役員 主幹 佐藤正吾

東京府下ニ於ケル
 塾及ビ寮

創 立 性 格 細 領 役 員 會 員 活 況

代表者 藤 江 利 雄

之部
 深澤會

京橋区銀座四ノ二 故文鑑ビル

役 員 三十名
 幹 事 生 田 豊
 同 山 口 基 三 郎
 總 務 細 貝 泉 吉
 散 費 主 佐 藤 正 吾 死 亡 ニ ヨ リ 詳 散

准神道場

北多摩郡神代村栗大寺三、五〇一

創立
在 格

昭和九年四月一日

細 領

役員
場長 諸 熊 八十太郎

塾 生 五 名

大 治 況 動

△ 維新寮 定橋区戸塚

創立
綱 領 昭和十一年二月十一日

寮 生
役 員
性 格
状 況

代表 影 山 正 岩

昭和十四年五月二十五日、左記解散ノ辞ヲ疾シテ解散ス

維新寮解散ノ辞

昭和十四年五月二十五日、大橋公冠ノ當日ニ当リ、滿三ヶ年ニ亘ル我等
ガ處ノ稼城タリシ維新寮ヲ解散シテ、一切ヲ擧ゲテ大東塾ニ合流スル
我等ハ維新寮ニ於テニニ六事件ヲ迎ヘ、支那事変ヲ迎ヘタ。事ニ至シテ
二四ノ總検束ヲ度ケタ。一名ノ寮同志ハ泣召シテ重務ニ尽粹シツ、アリ
乘集「神道頼集」ニ「總近頼集」若述「明治維新」ト天賦紐「其他數十種ノ出
版物ヲ出版シ、二十枚名ノ同志ガ生活ヲ共ニシ苦業ヲ共ニシタ。
又旧純正維新共同青年隊、日本主義文化同盟、青年俱樂部等ノ組織ハ河
等カノ意味ニ於テ、維新寮ヲ重要ナ根據トシテ結成サレ、推進サレタ。
歐地及ビ国内ニ於テ維新寮ニ從事シツ、アル同志ガ如何ニ魂のふるさと
トシテ原ヲ思ヒツ、アルカハ想像以ニテアル。

然カモ新夕ニ半々タル前途ヲ以テ風災トシテ生誕セル大東塾ハ、其ノ人
的関係ニ於テ、其ノ恩恵内容ニ於テ、其ノ精神的基調ニ於テ維新寮ノ振
大發展ト思テ差支ヘナイノデアル。茲ニ於テ寮同志決議ノ上正式ニ全部
ヲ擧ゲテ大東塾ニ合流合流スルコトニ決定シタ。
茲ニ維新寮ノ解散ヲ天下ニ宣スルニ当リ、始終一貫我等ヲ支持シ、鞭撻
シ其ノ赤心ノ限リヲ賜ツタ吉田益三、前田虎雄両先生ヲ始メ、先輩同志
各位ニ感謝ノ至心ヲ捧ゲ、今後ノ精進健斗ヲ宣誓スル

金 鷄 學 院

小石川区原町一ニ

創 立
性 格

昭和二年三月一日
一 安岡正篤ヲ中心トスル日本主義學院ニシテ、左右兩翼思想運動者ノ他
ニ現役軍人マ出入ス

綱 領

- 一 「國權奮」ニ新日本同盟レト關係ヲ有セリ
- 一 儒教ヲ中心ニ東西聖賢ノ学ヲ修ム
- 一 特ニ民族精神並ニ國体ト若道トヲ研究シ、社稷ノ士ヲ養フ

一、政治経済ノ代用ヲ習ヒ、世界ノ情勢ヲ考究ス

役員 長老 和田 彦次郎

同 尾 眞三郎

同 鶴 見 左喜雄

同 赤 池 濃

同 長 酒 井 忠 正

同 監 安 田 正 篤

同 主 事 長 東 方 謙

同 理 事 町 田 辰 次郎

同 監 事 土 岐 章

同 教 官 菅 原 兵 治

同 農 務 主 渡 辺 榮 雄

同 農 務 員 一 千 三 百 名
同 王 縣 北 企 郡 管 谷 村 二 農 士 学 校 (農 場) ヲ 有 ス

「金鶏会報」(八、九、六、四) 二十部發行
一、昭和十四年十一月十五日「第五十五回例会」ヲ開催、安田學監ヨリ「
諸君孔明ヲ禮フレト題スル講演」ヲ聴取ス

皇 教 塾 豊島区目白町二ノ一、六六三

創 立 勝 裕

綱 領 綱 領

役 員 塾 長 富 山 軍 治

塾 生 塾 生

状 况 况 况

皇都興亜塾

小石川区水道端町二ノ六四

創立 昭和十四年四月九日

性格 逆木良明ヲ中心トシテ、片岡 駿、真戸足百、狩野 敏、此王善士夫等ガ

世話入テアル

細 領

維新ノ達成ニハ人材ヲ要ス、青年ヲ教育スルト共ニ、青年ノ再教育ガ必要

ナル、知育偏重ノ弊ヲ今日程痛感スル時ハナイ。滿洲、蒙疆、新支那ニ於

テ真ニ百年ノ計ヲ樹テ、日本ヲ建設スルニハ、日本主義ニ目覺メタル人物

ニ板ツテ看実ニ実行サレネバナライ、既ニ興亜塾ハ滿洲ニ十四ヶ所開塾

サレ、近ク蒙疆、中支、北支ニモ開塾サレル運ビトナツテキル、皇都興亜

塾ハ之等興亜塾ノ中抜トナルベキ使命ヲ帯ビテ出発スル

相談役 田 鍋 安之助

役員

同 大 井 林 一 之

同 村 井 海 蔵

同 河 原 行 雄

同 谷 武 雄

同 石 藤 源 内

同 横 山 雪 堂

世 話 人 笠 木 良 明

同 児 玉 善 士 夫

同 伊 藤 三 郎

同 向 井 道 利

同 小 黒 将 永

同 太 田 専

道 友 阿 久 津 正 彦

同 飯 島 兵 志 雄

同 杉 田 匡

同 志 田 幸 雄

塾頭 河故捨藏

國体義塾 武蔵野町岡崎一三六八

創立 昭和十二年四月十日

性 格 「國体主義同盟」ヲ主宰スル望見岸雄ノ創設セルモノナリ

綱 領

役員 塾長 望見岸雄

塾 監 岡本永治

塾 生

曰下休塾中

状 況

志 道 塾 杉並区上井草町五五

創 立

昭和十五年十二月

綱 領

役員 指導者 松田喬平

小川四郎

塾 生 十名

状 況

志 道 塾 渋谷区千駄ヶ谷町二ノ四八三

創 立 昭和十四年四月四日

性 格 一、大亜細亞建設社主幹笠木良明ハ、其ノ經營ノ松左塾（中野区上ノ原町）

ヲ分派シテ千駄ヶ谷ニ松左塾ヲ開設ス

一、大亜細亞建設社関係ノ向井定利ヲ寮長トス

一、拓大週ノ會ノ寮トシテ活動セル賛天寮ハ拓大先輩タル笠木良明ノ松左

塾ノ開設ト共ニ寮ヲ解散シ、寮生ハ全部松左塾ニ移レリ

後 員 塾 頭 笠 木 良 明

寮長 向井定利

塾生 坂大魁ノ會員 九名

日大生 三名

無線高校生 一名

状治 足勤

一、昭和十四年七月十九日、再び元ノ中野区上ノ寮明ニ移転、向井夫婦ハ
横浜市神奈川区日吉本町一九二三ニ転居通勤監督ヲ行フ

寮長 向井定利

寮生 坂大生 一名

日大生 五名

明大生 一名

東亜学校 一名

松柏塾

淀橋区下巻合四ノ二一五四

創立 格立

編 領

役員 指導者 加藤直臣

塾生 加藤直臣八國士館専門学校事務員トシテ勤務シ、塾活動ハ休止状態ナリ

状治 足勤

昭和塾

麹町区永田町一ノ一五

銀座五三三九九

創立 格立

一、昭和十三年十月五日
一、最近ノ國家主義國体ノ傾向ガ知識ヲ輕視シテ行動主義ニ偏シテキル願
キアルニ鑑ミ、習識ト行動ヲ並行セシメル方針ヲ採ツテキル

一、塾ノ内容ハ政界、學界、思想界ノ第一線ニ立テル名士ヲ網羅シテ、私

学校強ニ組織シテキル。

一、左翼並向者ヲ拒擯シテ右翼國体ヨリ非難ヲ招イタ

一、中心人物後藤隆之助ハ近衛公剛近者ノ一入トシテ現ラレ、翼賛會組織

綱領

局長ニ就任シテ同題ヲ生ジタ

役員

局長	後藤隆之助
理事	後藤文夫
司理	平貞藏
司書	蛸山政道
同	大塚惟清
同	三木清
同	林久治郎
同	田澤義輔
同	白鳥敬夫
同	市川清敬
同	村上英
同	尾崎英

會員

中村栄治
澤村克人
甲斐政治

扶危

一 昭和十四年七月三日、滿洲及び中支視學団ヲ派遣ス、引率者ハ滿洲、平貞藏、中支、村上、敦ニシテ、団員ハ塾生中ヨリ選抜セシ主トシ、云大学在學生ナリ

昭和義塾 赤坂区一ツ木町三七 西教寺内

創立

昭和八年五月一日 国林推護聯合會長入江雅矩ノ指導ヲ受クル前田芳藏ノ創設セシ塾ナリ

性質

役員 指導者 前田芳藏

妻生

治動

前田芳藏ハ最近北中支ニ出張スルコト多ク特殊ノ活動ヲ行ハズ

新東洋學舎 芝区田村町 國際觀光ビル

創立

綱領

役員 代表者 野田 蘭 波

倉員

活動

殉國寮 芝谷区羽澤町三五

創立 昭和十二年十月三十一日

性格

綱領

役員 寮長 小林 晃

寮生 遠山 光 徳

寮生 六名

活動

又メラ學塾 京橋区銀座西五ノ五 菊地ビル

創立 昭和十五年五月

主任 参謀本部高島大造 文部省國民精神文化研究所小島成彦等ガ中心トナツテ

編 領 趣 意

「日本世界史建設最士ノ養成」ヲ目的トシテ創立セルモノナリ

既ニ第一次世界大戦ニ依ツテ没落の段階ニ入レル欧米近代史ハ、其ノ没落ノ道ヲ平クモ新興政治原理ニ求メ、遂ニ又ニ深刻ナル内的小裂対立ヲ示スニ至ツタ。斯クシテ彼等ノ暗胆タル方向ハ、亦ニ次世界大戦ヲ決定的タラシメ、全世界ハ今々其ノ没落ト変革ノ真中ニ立ツテ、更ニ新タナル原理大系ヲ要求シツ、アル。

茲ニ我が日本ハ、近代欧米ノ植民地侵略ニ依ツテ全ク蹂躪シセラレ、荒蕪シタル亜細亞太平洋圈ノ上ニ、再ヒ東洋ノ偉大ナル傳統ヲ復興シ、新ナル世界的創造ノ段階ニ進マントスル。斯クテ日本ハ世界史上最大ノ転換期タル古代、中世、近代ニ次グ新世界ヲ形成スベキ基礎ト、其ノ体系トヲ組織スル任務ヲ自覚スベキデアル。茲ニ日本のナルモノ、再組織研究ニ依ツテノミ、世界建設ノ唯一ノ方向ハ指示セラレ、世界的ナルモノハ悉ク日本の把握ニ依ツテ再メテソノ本質ヲ明確ニセラレルコトヲ知ル。故ニ據ツテ我が國ハ、世界ノ各領域及心部同ニ貫リ、日本的、世界的原

理ニ依ル調査、批判ヲ精密ニ遂行シ、真ノ全面的革新ノ指標ヲ明示シ、以テ全世界ノ一切ノ問題、方向ニ正確ナル説明ヲ与ヘ、再ニ來ルベキ世界ノ形態ノ興理ヲ、其ノ内容ト素材トニ於テ育成センコトヲ期スル。而モ今々世界ノ集団化ト、日本ノ孤立化ノ危機ハ、亦ニ次世界大戦ニ於ケル亞細亞太平洋圈ノ危機ト相俟ツテ、日本ノ皇道世界建設ノ果敢ナル統一の実踐ヲ必須トシ、正ニ我が國ニテ學塾レノ具體的發展ノ急ナルコトヲ確信セシメル。

目 的

ヌメラ學塾ハ設立ノ趣旨ニ基キ、日本世界史ノ建設的戰士ノ団結能力ヲ期シ、之ガ戰士ヲ養成スルヲ以テ目的トス

組 織

一、ヌメラ學塾ハ、塾頭、研究部員、塾員、塾生ヲ以テ組織ス

一、研究部員ハ左ノ各研究部ニ屬シ、塾員、塾生ノ共同並ニ指導ヲ擔當ス

- 戦争文化研究部
- 科学文科研究所
- 航空文化研究部
- 女性文化研究部

映画文化研究部
 経済向題研究部
 農村向題研究部
 日本向題研究部
 近世向題研究部
 太平洋向題研究部
 アメリカ向題研究部
 都市向題研究部
 組織向題研究部
 支那向題研究部
 北方向題研究部
 欧羅巴向題研究部
 アフリカ向題研究部
 一、 整理ハスメラ学整理了者中整理ノ適當ト認ムルモノヲ以テ編成シ、夫々ノ在念的地位ニ応シテ研究部員ト被力ス

一、 整理ハスメラ学整理ノ趣旨ニ共鳴シ入整ヲ希望スル者ヨリ鑑別又、所定ノ講座ヲ聽講シ並ニ共同研究ニ参加スルコトヲ得
 一、 講義大系ハ左ノ通り
 1. 日本哲学
 皇道論
 西洋思想批判
 東洋思想批判
 日本世界文化
 2. 日本政治学
 国家形態論
 立法論
 世界政治論
 皇位建設論
 日本世界政策論
 3. 日本経済学

- 日本經濟史
- 世界經濟批判
- 產業論
- 金融配給論
- 國營論
- 日本自給自足圈
- 4. 日本文化學
- 日本人論
- 芸術論
- 科學論
- 日本世界史論
- 5. 日本戰爭學
- 英雄論
- 戰爭文化論
- 戰爭經濟論

總力戰形態論
日本世界戰爭論

以上ノ体系の概括ノ下ニ日本ヲ起點トスル世界史の維新ニ於ケル文化
經濟、政治、組織ノ總力戰的鮮明ヲナス

一 右ノ外、世界建設指導者ニ依ル特別講義ヲナス

一 講座ハ一週二回、一週ニケリトシ、毎期定員ヲ三百名トス

役員
頭末次信正

講師 市河 亥太郎 (外務省文化事業部長)

與村 喜和男 (企画院調査官)

志田 延表 (文部省教育官)

伏見 猛次 (文部省國民精神文化研究所員)

吉田 三郎 (同 右)

皮多 尚 (同盟通信社外信部長)

小島 成茂 (文部省國民精神文化研究所員)

瑞雲寮 小石川区音羽町五ノ一七

創立 昭和十三年五月十五日
性格

額 須

役員 寮長 護 高

寮生 八名
次名 況勤

靖亞寮 白根区宮前町一六七〇

創立 昭和十五年十一月
性格 血盟団事件関係者縁 憲二ノ前塾セルモノテ、
「大業塾」ハソノ姉妹塾テ

役員 塾頭 森 憲 二
奇 藤 光之輔
加 藤 官 康

寮生 南 部 一 郎
渡 辺 雅 壽
長 谷 川 勇 一 郎
外語生中村若二他六名

政 教 塾 中野区栄町通二ノ九

創立 性格
額 須

役員 指等者 皆川 三 陸
塾生
治狀 勤況

正大塾 本郷区駒込曙町二八 今井方

創立 昭和十四年四月十五日

性格 頤頤

役員

今井 善四郎
南波 恕一
岸本 望利
矢田 務治郎
吉田 虎雄
水之瀬 島傳

塾生 五十名
治狀 勤況

成章學苑

目黒区中根町一八四二

創立 昭和七年六月一日

性格 頤頤

長野 閑

塾生 五名

船田 久方吉
島正 興

治狀 勤況

尊皇大義塾

足立区上池田町九七一

創立 昭和十五年四月三日

性格 一、維新同盟宣傳部長野村國雄（欲司）が青年層ノ啓蒙ヲ目的トシテ開設シタルモノナリ

一、野村ノ勤務先タル足立区北宮城町大野製革工場ノ職工ヲ主トス

綱領 發立趣意書（要旨）

支那事変起ルヤ百万ノ將兵ヲ大陸ニ送りテ我々ノ英靈ヲ靖國神社ニ送りシ國民ハ産業報國ニ戰士トシテ活躍シテアル、之コノ生命経済奉還ノ実践者ナアル、

斯ル反動ニ於テ一部ニ私腹ヲ肥ヤシ競争資金ノ統出スルアリ、之レ實ニ社会不安ノ原因ニシテ誰カ共產思想ノ再発ナシト云ハシヤ

我國ハ外敵ヲ恐レズ、恐ルベキハ自由主義、共產主義思想系ノ内敵ナリ、内敵ハ國民ノ手ニ板ツテ撃滅セザルベカラズ

天皇帰一、尊皇絶対ノ思想ニ板リ奉還精神武裝セヨ

役員

塾長 維新同盟宣傳部長

野村 國雄

尊皇大義塾

創立 昭和十五年五月十二日

性格 維新同盟（主幹 竹本信一）ガ、日本主義ニ生キル真ノ勇士ヲ養成スルコトヲ目的トシテ開設シタルモノ

綱領

役員 竹本 信一

野村 茂道

高 原 凌 一

塾 生

活 況

大 臣 拓 士 義 塾

世 田 谷 区 大 原 町 一、二 六 〇 守 方

創 立 昭 和 十 五 年 十 一 月 一 日

注 格 美 濃 部 達 吉 博 士 祖 傳 犯 人 小 田 十 在 ノ 創 設 セ ル モ ノ ナ リ
細 領 趣 意 書、要 旨

大 臣 細 臣 氏 族 興 隆 ノ 一 石 ヲ 今 直 子 ニ 布 石 ス ル ニ 非 ズ ン バ、 国 患 昨 又 子 年
ノ 後 ニ 及 ビ、 子 孫 ヲ シ テ 方 途 ニ 迷 ハ シ ム ル ニ 至 ラ ン、 此 ノ 国 際 危 機 ニ 直
面 シ、 国 家 百 年 ノ 大 計 獨 立 ヲ 專 念 シ、 急 務 セ ル 時 局 打 崩 寸 目 堪 シ テ 冷 ク
天 下 同 慶 ノ 士 ヲ 糾 合 シ、 此 ノ 大 愿 ニ 挺 身 奉 公 セ ン ト 志 シ、 敢 テ 大 臣 拓 士
義 塾 ヲ 興 シ、 有 士 者 士 ノ 糾 導 ト 兼 務 ニ 当 リ、 東 亞 共 榮 國 確 立 ノ 一 線 ニ

細 領 趣 意 セ ン コ ト ヲ 掲 フ モ ノ ナ リ

- 一 尊 皇 ノ 大 義 ヲ 明 徹 ニ ス
 - 一 国 体 ノ 顯 現 ニ 直 往 シ、 思 慮 ノ 善 導 ニ 邁 進 ス
 - 一 国 民 生 活 ノ 安 定 策 ヲ 考 察 シ、 之 ヲ 実 政 指 導 ス
 - 一 皇 親 正 氏 族 ノ 大 同 団 結 ヲ 宿 願 シ、 之 ヲ 進 成 ニ 努 カ ス
 - 一 帝 時 晴 耕 兩 詠、 事 ニ 際 シ 予 捨 身 奉 公 ヲ 專 念 ス
 - 一 日 本 精 神 ヲ 修 得 シ、 海 外 ニ 雄 飛 ス
- 小 田 十 在
守 方 繁 三

大 業 塾

世 田 谷 区 千 駄 谷 町 二、四 一 九

創 立 昭 和 十 五 年 十 月 十 七 日

注 格 血 盟 團 事 件 殉 難 者 田 中 邦 雄、 同 森 憲 二 (両 名 共 大 日 本 聯 合 青 年 団 専 託)
が、 最 近 ノ 情 勢 ニ 鑑 ミ テ 青 年 ノ 修 養 ヲ 益 々 必 要 ナ リ ト シ、 日 本 皇 政 会 々 長

細 領

今泉定助ヲ頼岡トシテ南塾セルモノデアル

級 員

頼 岡 今 泉 定 助
國 入 森 憲 二

田 中 邦 雄

川 崎 長 光

黒 澤 大 二

大 東 塾

渋谷区代々木西原町九五九

別 立 性 格

昭和十四年四月三日

一、神兵隊事件關係者影山正治ガ、前田虎雄、吉田益三、小林順一郎等ノ

後援ヲ受ケテ開塾セルモノ

一、其ノ宣言ニ「本塾ヲシテ大東維新ノ松下村塾タラシメントイヘル如ク、昭和維新ヲ目指シテ、上御一人ノ御前ニ已レテ厄レテ革新ニ邁進

綱 領

宣 言

シ得ル優秀ナル分子ヲ養成セントシテ居リ、影山自ラ塾ニ起居シテ訓育ニ當ラテキル、

修理固城ノ神勅ヲ奉シ、八紘一宇ノ聖詔ヲ体シ、内外ニ神國ヲ社殿ニスルハ皇國及日本不勅ノ世界史的使命ナリシ

明治維新ハ之ガ国内的実証ニシテ、滿洲事変及ビ支那事変ハ之ガ対外的実証ナリ、今ヤ殉國ノ仁人ヲ要スルコト最モ切、内外維新遂行ノ人柱タルベキ決死不動ノ青年維新者ヲ養成スベキナリ

聖戰下滿支大陸ニ於テ最モ切實ニ要求セラレツ、アルハ滿語、支那語ノ

練習者ニモ非ズ、事務的敏腕才士ニモ非ズ、企業家的ヲウ成分子ニモ非

ズ、只若キ民族使命ノ行者、皇道宣布ノ殉教者ナリ

吾人、茲ニ實証シテ大東塾ヲ結成シ、熱腸赤心ヲ傾ケテ大陸ノ才一線ニ

立ツベキ青年人材ノ養成ニ當リ、大東維新ノ松下村塾タラシメント発願

ス

聖誓

- 一、大東トハ即チ大統世界ノ謂ヒナリ、吾人ハ聖道ニ依ル大統在敷ノ実現ヲ期ス
- 一、大東トハ即チ大東洋聯盟ノ謂ナリ、吾人ハ全世界大統ノ根基タル大東洋聯盟ノ実現ヲ期ス
- 一、大東トハ即チ大東國曰本ノ謂ナリ、吾人ハ神命ニ基ク道ノ國、光ノ國、大東國曰本ノ実現ヲ期ス

熟願

本聖ハ聖誓ニ基キ、滿支大陸ノ中一線ニ立子、聖道宣布ノ殉教者トシテ挺身奉公スベキ矣。予青年志士ノ養成ヲ願フトス

入塾資格

- 一、聖誓ヲ信奉シ熟願ニ到シ得ル懸命者トシタルコト
- 一、身心無礙ニシテ二十五才以下ノ純身男子タルコト
- 一、學歷ヲ問ハズ、又國體ノ信仰者タルコト

熟願

- 一、學費、生活費ハ支給ス
- 一、在塾期間ハ滿一ケ年トス、但シ專門學校、大學ノ在學生ニシテ入塾セル者ハ一ケ年以上ノ期間ヲ定メス
- 一、定員ハ二十名トス、別ニ塾外生ヲオク
- 一、清家支入ノ入塾希望者ハ事物考査ノ上特別生トシテ許可ス
- 一、卒業者ハ政和会、新民会、現地特務機關、其他民間機關等ニ推薦配属セシム

塾生關係

- 一、天皇陛下ノ才媛ニ立ツ真ノ日本人トナラフ
- 一、大小ニ神州ノ正氣ヲ振起シ、一切ノ利害ヲ謝成シヨウ
- 一、道ノ爲ニハ名譽モ地位モ財産モ生命モイラナイ
- 一、恥ヲ知り疾ヲ有タウ
- 一、理窟ヤ不平ヲ云ハナイ
- 一、嘘ヲイハナイ
- 一、勸告ヲハカナイ。